No. 001

タイ国看護教育プロジェクト
評価調査報告書

平成元年12月

国際協力事業団
医療協力部

医 協
J-R
89-52

20515
JICA LIBRARY
1080046[4]

タイ国看護教育プロジェクト

評価調査報告書

平成元年12月

国際協力事業団
医 療 協 力 部

国際協力事業団
20595

はじめに

当事業団はタイ国の要請に基づきタイ国の看護医療状況を改善に資するため、タイ国看護教育プロジェクトを昭和55年8月1日より実施した。この間、23名の専門家の派遣を中心に、研修員の受入、機材供与などを実施し、技術協力を行なった。

プロジェクト協力期間の終了にあたり、これまでの成果を総括し、評価することを目的として、昭和60年2月16日より2月24日まで矢野正子厚生省健康政策局看護課課長補佐を団長とする評価調査団をタイ王国に派遣した。

本報告書は調査団の調査・協議結果をとりまとめたものである。ここに本プロジェクトに当たられたプロジェクトリーダーをはじめ専門家の方々、ならびに本件調査団派遣にご協力いただいた関係機関に深甚なる謝意を表わすとともに、今後とも一層のご協力をお願いする次第である。

平成元年12月

国際協力事業団
理事　西　野　世　界

目　　次

Ⅰ．派遣の経緯 …… 1

Ⅱ．調査団の派遣目的、構成及び日程 …… 4
　1．目　的 …… 4
　2．構　成 …… 4
　3．日　程 …… 4
　4．会議出席者名簿 …… 5

Ⅲ．プロジェクトの実績 …… 7
　1．日本側投入実績 …… 7
　2．年度別実績 …… 10

Ⅳ．タイ看護教育プロジェクトの背景 …… 13
　1．タイ看護教育の概観 …… 13
　2．ＮＣＤの機能 …… 19

Ⅴ．プロジェクトの評価 …… 21
　1．中堅技術者養成 …… 21
　2．研修員受入れと帰国研修員の活動 …… 22
　3．看護教育カリキュラム …… 26
　4．派遣専門家の活動 …… 29
　5．看護教育に関する研究 …… 31
　6．看護学校の実際 …… 32
　7．供与機材の活用、及び管理状況 …… 39
　8．タイ側のプロジェクト評価 …… 41
　9．総合評価と提言 …… 44

Ⅵ．今後の対応－延長プロジェクトの内容に関する提案－ …… 45

Ⅰ．派遣の経緯

1977（昭和52）年７月 ― タイ国政府からの協力要請により看護教育関係 ― 事前調査団派遣（勝沼晴雄団長以下５名）

1978（昭和53）年４月 ― タイ国技術経済協力局（ＤＴＥＣ）より調査団の派遣要請

７月 ― 看護教育関係専門家チーム派遣

1979（昭和54）年２月 ― タイ国政府より、看護教育プロジェクト（技術協力および無償資金協力のパッケージ）の要請

無償資金協力としてのマハサラカン看護学校新設は、タイ国第四次国家開発５ヶ年計画（1977－1981）に組み込まれた。

1980（昭和55）年６月 ― 技術協力の計画調整専門家チーム派遣（清水嘉与子団長以下３名）

７月 ― 実施協議チーム派遣（都築公団長以下５名）

８月 ― 昭和55年８月１日、５ヶ年間の技術協力に関するRecord of Discussion（Ｒ／Ｄ）に署名。タイ－日本看護教育技術協力プロジェクトが発足。

11月 ― Miss Paga, Sriyuktasuth （看護教育課長）来日（11／30～12／13, ２週間）

1981（昭和56）年３月 ― 上田礼子、西浦キヌエ専門家の派遣（看護教育研究、看護教育、短期）

― 真覚富士子調整員の派遣（計画調整、長期）

４月 ― 国内委員会正式に設置（インドネシア及びタイ）

11月 ― Mrs. Nangnoi Ratanachata来日（Nakornrajasima看護学校、看護教育内科、11／15～57. 10／20、11ヶ月）

― Miss Warasri Poontong(Chomburi看護学校、看護教育・内科、11／15～57. ５／20、６ヶ月）

1982（昭和57）年１月 ― Mr.Kowit Wiwatsorn来日（看護教育課、ＡＶ技術、１／７～３／17、2.5ヶ月）

― Mrs.Sajea Anunnopakum 来日（songkhla看護学校、基礎看護、１／４～10／20、9.5ヶ月）

― 日比野路子専門家の派遣（看護教育、短期）

４月 ― 高城聡専門家の派遣（機材据付、短期）

５月 ― 日比野路子チームリーダーの派遣（看護教育、長期）

― 上田礼子専門家の派遣（看護教育研究、短期）

９月 ― 寺西明子調整員の派遣（業務調整、短期）

10月 ― 佐々木ノブ専門家の派遣（小児看護、短期）

― Mrs. Comwan Weesapen 来日（Ubon-Rajathani看護学校、看護教育・精神科、10／28～58. 10／27、1年）

1983（昭和58）年1月 ― 牛山雅英専門家の派遣（ＡＶＡ、短期）

― Mrs. Chalam Puang-Chan 来日（Phitsnulok看護学校、看護教育・学校管理、1／20～3／5、1.5ヶ月）

2月 ― 無償資金協力によるスリマハサラカム看護学校建設完成、タイ国政府へ引渡。

― Mr. Domrong Chan-iem 来日（看護教育課、ＡＶ技術、2／3～4／12、2.5ヶ月）

4月 ― 高城聡専門家の派遣（機材据付、短期）

5月 ― 津島優子専門家の派遣（看護教育、長期）

― 牛山雅英専門家の派遣（ＡＶＡ、短期）

― 計画打合せチーム派遣（勝沼晴雄団長以下4名）
技術協力の進捗状況の視察及び今後の活動計画の調整、スリマハサラカム看護学校への技術協力等。

6月 ― スリマハサラカン看護学校開校

11月 ― 加藤政子専門家の派遣（精神看護、短期）

― Miss Proong Kamaratat 来日（Chantabri 看護学校、看護教育・学校管理、11／7～12／17、1.5ヶ月）

― Miss Kanchana Santiputanachai 来日（看護教育課、看護教育、11／7～12／17、1.5ヶ月）

― Miss Tuenchai Kantisit来日（Nakornsawan 看護学校、看護教育・内外科看護、11／20～59. 11／22、1年）

1984（昭和59）年

3月 ― 上田礼子、宮地文子専門家の派遣（看護教育研究、短期）

6月 ― 季羽倭文子専門家の派遣（地域看護、短期）

10月 ― Miss Boonprakong Batputtana, Mrs. Somsee Sangcham 来日（SriMaha sarakham看護学校（Chomburi看護学校、看護教育・学校管理、10／6～11／17、1.5ヶ月）

10月 ― 荒井蝶子専門家の派遣（看護管理、短期）

― 技術交換事業としてインドネシアー日本看護教育プロジェクトチームの来タイ（藤門政子チームリーダー以下2名）

11月 ― Miss Ranuwan Hanvarit, Miss Wanna Joesen来日
(Pitsanuloke Buddhachinarai 看護学校、地域看護、11／21～55. 10／22、11ヶ月；Suratthani看護学校、小児看護、11／21～55. 10／22 11ヶ月)

1985（昭和60）年2月 ― 評価調査団派遣（矢野正子団長以下5名）
プロジェクト5年間の評価および延長の可否等に関する協議

5月 ― 上田礼子専門家の派遣（看護教育研究、短期）

7月 ― プロジェクト2年間延長のR／D署名
― 友井康子専門家の派遣

8月 ― 日比野路子チームリーダー、津島優子専門家の帰任
― 古賀八千代専門家の派遣

9月 ― Miss Vipa Pengsangium, Miss Pranorm Im-ame, Mrs. La-Iad Jamjan 来日(Uittaradit看護学校、内外科看護、9／26～51. 9／10、11.5ヶ月；Saraburi看護学校、公衆衛生看護、9／26～61. 9／10、11.5ケ月；Racthaburi看護学校、産婦人科看護、9／26～61. 9／10、11.5ヶ月)

1986（昭和61）年

3月 ― 島田淳子チームリーダーの派遣（看護教育、長期）

II. 調査団の派遣目的、構成及び日程

1. 目　的

昭和55年8月1日より開始された看護教育プロジェクトが昭和60年7月31日に終了となるため、技術協力の実績及びその効果を調査・評価するとともに、タイ国側のプロジェクトへの今後の対応等を含め協議を行う。

2. 構　成

(1)	団　長	矢野正子	厚生省健康政策局看護課課長補佐
(2)	団　員	真覚富士子	(財)国際看護交流協会企画室長
(3)	団　員	西村千代子	厚生省看護研修研究センター教務科長
(4)	団　員	石平正子	厚生省保健医療局管理課看護専門官
(5)	団　員	近藤芳久	国際協力事業団医療協力部医療協力課

3. 日　程

1985年 2月16日（土）	10：00	成田発 ―TG.625→ 17：10　バンコク着 日比野リーダー、津島専門家、保健省看護教育課等プロジェクト関係者の出迎えを受ける。
	18：30	宿舎（ニューインペリアルホテル）着
2月17日（日）	7：00	バンコク発 ―TH.200→ 7：45　コンケン着 スリマハサラカム看護学校長の出迎えを受ける。
	9：00	コンケンから車にて1時間、スリマハサラカム看護学校着、在校生による歓迎。
	9：30～	スリマハサラカム看護学校視察
	15：00～	スリマハサラカム看護学校において、同校運営の実態、プロジェクトの効果及び評価等につき、同校校長と協議。
2月18日（月）	9：00～11：30	マハサラカム病院視察
	13：30	コスムピサイ地域病院（60ベッド）視察。
	15：30	チェングェン地区病院（ヘルスセンター、8ベッド）視察
	17：45	コンケン発 ―TH.207Y→18：30　バンコク着

2月19日（火）	9：30～	チョンブリ看護学校視察
	11：10～12：00	チョンブリ、リージョン病院視察
	13：30～15：30	パナスニコム病院視察。
	17：00	バンコク着
2月20日（水）	9：00～16：00	プロジェクト評価、協議。
2月21日（木）	9：00～	作成されたＡＶ教材２編（包帯交換、酸素テントの使い方）を観る。
	10：45～16：00	プロジェクト評価、協議。
2月22日（金）	9：00～	技術経済協力局次官　表敬訪問。
		団内打合せ
2月23日（土）	9：00～	資料整理 議事内容整理
2月24日（日）	7：30	ミニッツ署名
	10：30	バンコク発 ―ＴＧ740Ｊ（non stop）→成田着　18：00

4．会議出席者名簿

2月17日（日）　　於：スリマハサラカム看護学校

＜日本側＞　　日比野リーダー、津島専門家、甲斐ＪＩＣＡ職員、岩柳調整員

＜タイ側＞

Ms. Paga Settachant	（ＮＣＤ課長）
Ms. Boonprakhong Batputtana	（スリマハサラカム校校長）
Ms. Kanchana Santiputanachai	（ＮＣＤ）
Ms. Srismalai Nimkhunthod	（スリマハサラカム校教員）
Ms. Tipawan Pipatyothapong	（　〃　〃　）
Ms. Maliwan Yamsopa	（　〃　〃　）
Mr. Narongsakdi Khunbunya-arak	（　〃　〃　体育教員）
Mr. Sutin Susila	（ＤＴＥＣ）

2月20日(水) 21日(木)　於：保健省ＮＣＤ

＜日本側＞　日比野リーダー、津島専門家

＜タイ側＞

Dr. Swan	(保健省次官、20日開会時のみ)
Mrs. Paga Sattachant	(ＮＣＤ課長)
Ms. Boonchuay Choke-Mangmi	(ＮＣＤ)
Ms. Kusol Sriuthai	(ＮＣＤ)
Ms. Kanchana Santiputanachai	(ＮＣＤ)
Ms. Tassanee Nontasorn	(ＮＣＤ)
Mr. Kowit Wiwatsorn	(ＮＣＤ)
Mr. Manote Ketkamon	(ＮＣＤ)
Ms. Sujaree Pinit	(ＮＣＤ)
Ms. Parichad Tamthai	(ＮＣＤ)

2月19日（火）　於：チョンブリ看護学校

＜日本側＞　日比野リーダー、津島専門家、甲斐ＪＩＣＡ職員

岩柳（タイ人口家族計画プロジェクト）調整員

＜タイ側＞

Mrs. Somsee Sangjam	(チョンブリ看護学校校長)
Miss Warasri Poontong	(教員、57研修生)

他

Ⅲ．プロジェクトの実績

1．日本側投入実績

(1) 総括表

年度	プロジェクト総経費	調査			機材金額	専門家			研修員人数
		年／月	区分	金額		人数 長期	人数 短期	金額	
52	千円 1,817	52／7	事前調査	千円 1,817	千円	人 0	人 0	千円 0	人
53									
54									
55	6,164	55／6 55／7	計画調整 実施協議			1	2	3,868	1
56	82,585			96	56,504	0	1	25,985	4
57	77,977			355	43,439	1 (2)	5	32,808	3
58	74,776	58／5	計画打合	6,093	23,900	1 (2)	5	42,957	3
59	65,912	60／2	評価調査	3,182	25,658	0 (2)	2	36,723	4
計	309,231			11,543	149,501	3	20	142,341	15

（　　）内数字は合計数

（注１）事前調査経費はインドネシアと同時に実施したため等分し計上した。
（注２）プロジェクト総経費には研修員受入経費は含まれていない。
（注３）専門家派遣人数は新規を示し、（　　）内は当該年度合計数である。
（注４）中堅技術者養成対策費は専門家経費に計上されている。

(2) 各種調査団の派遣

① 事前調査団（派遣期間：昭和52年７月17日～７月21日）

団長	勝沼晴雄	（東京大学名誉教授、国際協力事業団運営審議会委員）
団員	永野　貞	（財団法人国際看護交流協会常務理事）
団員	山田里津	（三井記念病院看護学院長）
団員	竹内一郎	（財団法人国際看護交流協会事務局長代行）
団員	小野寺伸夫	（国際協力事業団医療第二課長）

② 計画調整専門家チーム調査団（派遣期間：昭和55年6月8日～6月15日）

団　長　　清　水　嘉与子　（厚生省医務局看護課課長補佐）

団　員　　佐　藤　恒　子　（厚生省医務局管理課看護専門官）

団　員　　真　覚　富士子　（財団法人国際看護交流協会企画室長）

③ 実施協議チーム調査団（派遣期間：昭和55年7月30日～8月5日）

団　長　　都　築　　公　（厚生省医務局看護課長）

団　員　　金　井　和　子　（厚生省看護研修研究センター主任教官）

団　員　　真　覚　富士子　（財団法人国際看護交流協会企画室長）

団　員　　寺　沢　邦　昭　（視聴コンサルタントセンターＡＶＣＣ海外部長）

団　員　　伊　藤　雅　治　（国際協力事業団医療協力部医療第二課長）

④ 計画打合せチーム調査団（派遣期間：昭和58年5月15日～5月24日）

団　長　　勝　沼　晴　雄　（東京大学名誉教授、国際協力事業団運営審議会委員、財団法人国際看護交流協会理事）

団　員　　伊　藤　暁　子　（厚生省看護研修研究センター　所長）

団　員　　長　浜　晴　子　（厚生省医務局看護課看護婦係長）

団　員　　北　林　春　美　（国際協力事業団医療協力部医療協力課）

(3) 専門家の派遣

年　度	氏　　名	指導科目	派　遣　期　間	
55	上　田　礼　子	看護教育研究	55. 3.10～55. 3.24	短期
	西　浦　キヌエ	看　護　教　育	55. 3.10～55. 4. 9	短期
	真　覚　富士子	計　画　調　整	56. 3.16～58. 3.15	長期、２年
56	日比野　路　子	看　護　教　育	57. 1.22～57. 2. 6	短期
57	高　城　　聡	機　材　据　付	57. 4. 9～57. 5. 8	短期、１ヶ月
◁	日比野　路　子	看　護　教　育	57. 5. 7～60. 7.31	長期、３年３ヶ月
	上　田　礼　子	看護教育研究	57. 5.10～57. 5.20	短期
	寺　西　朋　子	業　務　調　整	57. 9.14～57.12.13	短期、３ヶ月
	佐々木　ノ　ブ	小児科看護	57.10.25～57.11.13	短期
	牛　山　雅　英	Ａ　Ｖ　Ａ	58. 1.13～58. 1.28	短期
58	高　城　　聡	機　材　据　付	58. 4.20～58. 5. 5	短期
◁	津　島　優　子	看　護　教　育	58. 5.11～60. 7.31	長期、２年３ヶ月
	牛　山　雅　英	Ａ　Ｖ　Ａ	58. 5.21～58. 7. 7	短期、1.5ヶ月
	加　藤　政　子	精神科看護	58.11. 3～58.11.22	短期
	上　田　礼　子	看護教育研究	59. 3.11～59. 3.17	短期
	宮　地　文　子	看護教育研究	59. 3.11～59. 3.17	短期
59	季羽倭　文　子	地　域　看　護	59. 6. 9～59. 7. 6	短期
	荒　井　蝶　子	看　護　管　理	59.10. 6～59.10.13	短期
60	上　田　礼　子	看護教育研究	60. 5.12～60. 5.19	短期

◁　評価調査団派遣時の派遣専門家

(4) 機材の供与

年度	供与額	主な機材
55	千円	
56	56,504	カラーテレビカメラ、ビデオモニター、 ビデオ編集装置、特殊効果発生器　他
57	43,439 (1,375)	ポータブルＶＴＲシステム 視聴覚教材（"The Nursing Process" 9巻スライド教材1巻）　他
58	23,900 (1,829)	ＶＴＲセット、ビデオカメラセット、オフセット印刷機、 電子プリンター、マイクロバス　他
59	25,658 (349)	看護教育テキスト、看護実習教材 42セット、 スライドプロジェクター20台、マイクロバス1台　他
合計	149,501 (3,553)	

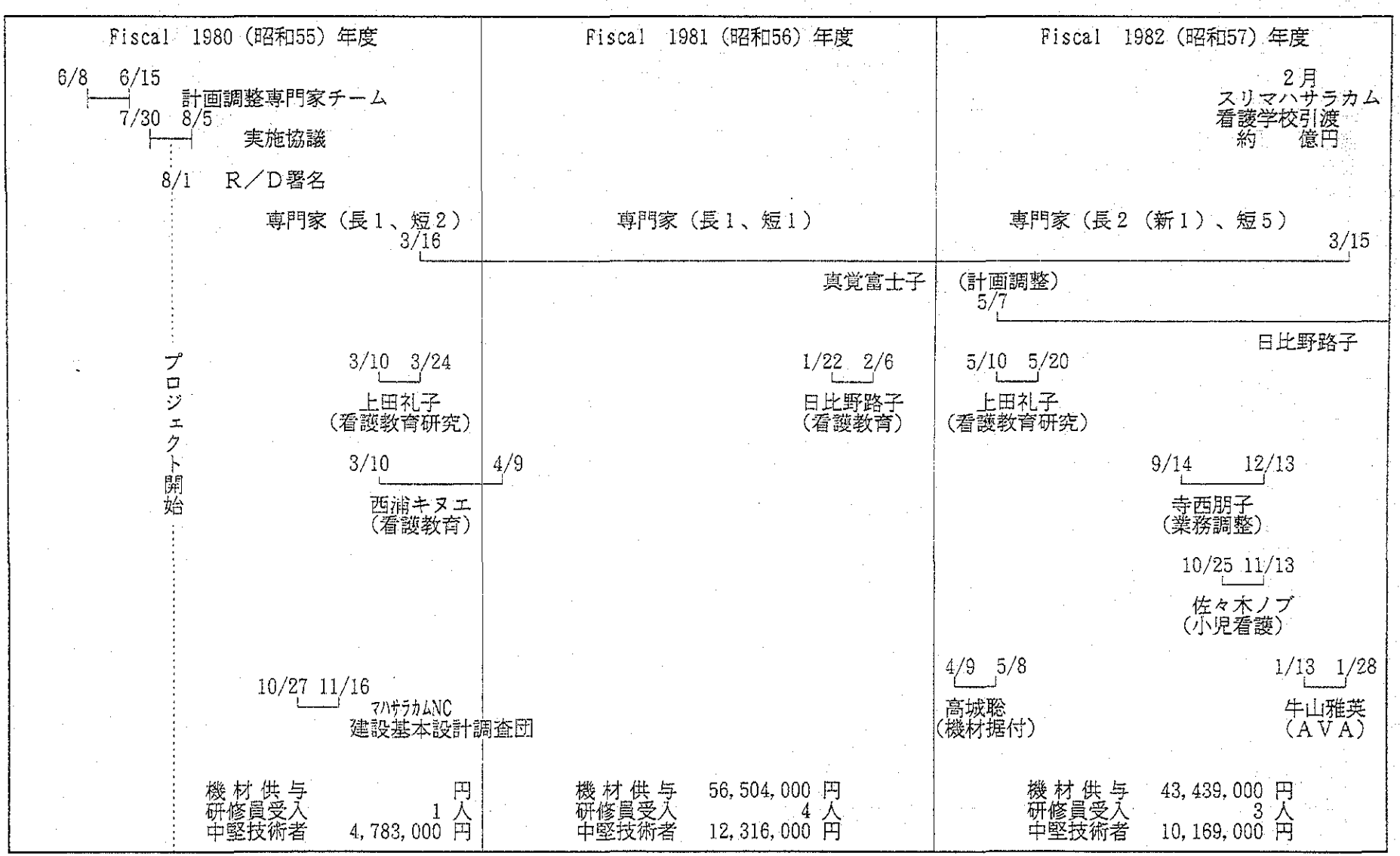
（　　）内は、専門家携行機材

(5) カウンターパートの受入れ

Year	Name	Belonging	Subject	Duration
1980	Paga Sriyuktasuth	NCD	Observation	11.30~12.13 (2wks.)
1981	Nangnoi Ratanachata	Nakornrajasima NC	Medical Nur.	11.15~1982.10.20 (11mon.)
	Warasri Poontong	Chomburi NC	Medical Nur.	11.20~1982. 5.20 (6mon.)
1982	Kowit Wiwatsorn	NCD	AVA Technic	1. 7~ 3.17 (2.5mon.)
	Sajee Anunnopakum	Songkhla N.C.	Med/Surg.Nur.	1. 4~10.20 (9.5mon.)
	Comwan Weasapen	Ubon-Rajathani NC	Psychiotric Nur.	10.28~1983.10.27 (1year)
1983	Chalam Puang-Chan	Phitsnulok NC	Administration	1.20~ 3. 5 (1.5mon.)
	Damrong Chan-iem	NCD	AVA Technic	2. 3~ 4.12 (2.5mon.)
	Proong Kamaratat	Chantabri NC	Administration	11. 7~12.17 (1.5mon.)
	Kanchana Santiputanachai	NCD	Administration	11. 7~12.17 (1.5mon.)
	Tuenchai Kantisit	Nakornsawan NC	Med/Surg.Nur.	11.20~1984.11.22 (1year)
1984	Boonprakong Batputtana	SriMahasarakham NC	Administration	10. 6~11.17 (1.5mon.)
	Somsee Sangcham	Chomburi NC	Administration	10. 6~11.17 (1.5mon.)
	Ranuwan Hanvarit	Pitsanuloke NC	Community Nur.	11.21~1985.11.22 (11mon.)
	Wanna Joesen	Suratthani NC	Pediatric Nur.	11.21~1985.11.22 (11mon.)
1985	Vipa Pengsangium	Uttaradit NC	Med/Surg.Nur.	9.26~1986. 9.10(11.5mon.)
	Pranorm Im-ame	Saraburi NC	Public Health Nur.	9.26~1986. 9.10(11.5mon.)
	La-lad Jamjan	Racthaburi NC	Ob/Gy Nur.	9.26~1986. 9.10(11.5mon.)

2. 年 度 別 実 績

Fiscal 1977 (昭和52) 年	Fiscal 1978 (昭和53) 年	Fiscal 1979 (昭和54) 年
7/17 7/21 ├──┤ 事前調査		


Fiscal 1980（昭和55）年度
Fiscal 1981（昭和56）年度
Fiscal 1982（昭和57）年度
6/8 6/15
計画調整専門家チーム
7/30 8/5
実施協議
8/1 R／D署名
プロジェクト開始
専門家（長1、短2）
3/16
専門家（長1、短1）
専門家（長2（新1）、短5）
3/15
2月
スリマハサラカム
看護学校引渡
約 億円
真覚富士子
（計画調整）
5/7
日比野路子
3/10 3/24
上田礼子
（看護教育研究）
1/22 2/6
日比野路子
（看護教育）
5/10 5/20
上田礼子
（看護教育研究）
3/10 4/9
西浦キヌエ
（看護教育）
9/14 12/13
寺西朋子
（業務調整）
10/25 11/13
佐々木ノブ
（小児看護）
10/27 11/16
マハサラカムNC
建設基本設計調査団
4/9 5/8
高城聡
（機材据付）
1/13 1/28
牛山雅英
（AVA）
機材供与 円
研修員受入 1 人
中堅技術者 4,783,000 円
機材供与 56,504,000 円
研修員受入 4 人
中堅技術者 12,316,000 円
機材供与 43,439,000 円
研修員受入 3 人
中堅技術者 10,169,000 円

Fiscal 1983（昭和58）年度	Fiscal 1984（昭和59）年度	Fiscal 1985（昭和60）年度
5/15 5/24 計画打合せ 専門家（長２（新１）、短５）	2/16 2/24 評価 専門家（長２、短２）	専門家（長３（新３）、短１） 7/30 7/26
（看護教育、チームリーダー） 5/11 津島優子 11/3 11/22 加藤政子（精神看護） 3/11 3/17 上田礼子（看護教育研究） 3/11 3/17 宮地文子（看護教育研究） 4/20 5/5 高城聡（機材据付） 5/21 7/7 牛山雅英（ＡＶＡ）	（看護教育） 6/9 7/6 季羽倭文子（地域看護） 10/6 10/13 荒井蝶子（看護管理）	友井康子（看護教育） 7/30 8/7 古賀八千代（看護教育） 3/6 島田淳子（チームリーダー） 5/12 5/19 上田礼子（看護教育研究）
機材供与 23,900,000 円 研修員受入 3 人 中堅技術者 8,760,000 円	機材供与 25,658,000 円 研修員受入 4 人 中堅技術者 8,124,000 円	

Ⅳ. タイ看護教育プロジェクトの背景

1．タイ看護教育の概観

(1) 看護教育の背景

タイにおける近代看護の系統的教育は1896年に逆のぼる。当時は新生児死亡率を下げることが最大の緊急課題であった。そこで当時の医療関係者は母子衛生の重要性を認識し、特に産科に重点をおいた乳児を世話する人の養成をはじめた。

やがてそれは、一般の看護教育を発展させ、特に病院に必要な人材を満たすための業務に重点がおかれた。

このように時代を追って看護教育は徐々に発展し、時代の要求に即時に応じてきた。

1896年　Siriraj病院に助産婦学校がつくられ、初等教育３年（elementary grade 3）終了の女子を入学させる３年間の助産コースであった。

1906年　教育省に、男子患者の世話をする看護士の２年の養成コースができ、これは1924年迄続いた。

1914年　サイアム赤十字社(The Red Cross Society of Siam) が、チュラロンコン病院にもう一つの学校を開設した。

1922年　看護学校入学資格は、スタンダード６（grade 10）に引き上げられた。

1946年　保健省医療サービス部は、ウーマンズ病院内に、スタンダード６卒業者に、３年半の教育課程の看護婦・助産婦養成校を開設した。
その後、Phitsanulok, Nakornrajasima, Song.Khla, Nabonswan, Chantaburi, Ubonrajathaniの各県に同内容の学校が開校した。

1950年　ウーマンズ病院看護学校（現バンコク看護学校）は、カリキュラムの中に公衆衛生看護プログラムを加えた。

1956年　医科学大学（現マヒドル大学）の大学評議会は、ＭＳ５（grade 12）卒業を入学資格とする４年制の看護学士プログラム（B.S.in Nursing）を医学部の中に開設することを承認した。

1959年　マヒドル大学医学部に、ＭＳ５卒業を入学資格とする３年制短大（associate degree program）が開設された。

1971年　保健省医療サービス局は、看護、助産、公衆衛生を学ぶ３年半のＭＳ３（grade 10）を入学者とするコースの代わりに、ＭＳ５（grade 12）卒を入学させる４年制の看護・助産コースを提案した。

1971年　コンケン大学にはじめて看護学部が開設され、ひき続いてマヒドル、チェンマイの各大学にも看護学部が発足した。

1977年　保健省次官補部局では、3 1/2年養成に代わる、ＭＳ５(grade 12) 卒業者を入学要件とする看護助産婦の４年制教育課程を提案した。

1980年　保健省次官補部局では、看護婦の教育課程は以下の内容とすべきとの改善を行った。

— 看護助産婦、専門看護婦 (nurse and midwife, professional nurse) 養成は、４年制とする。

入学資格は、grade 12、diploma 12 (ＭＳ５) とする。

— 看護助産婦、アソシエイト看護婦 (nurse and midwife, associate nurse) 養成は２年制とする。

入学資格は、grade 12、diploma 12 (ＭＳ５) とする。

卒業後教育として追加されるものは以下の通りである。

— １年の看護教員養成コースは、ウーマンズ病院卒業後教育校 (バンコク看護学校) において1955年以来行われており、引き続き行う。

— ２年の看護教育学士課程は、チョラロンコン大学教育学部で、行われてきており、今後も行なう。(Ｂ．Ｅｄ)

— 1972年には２年の修士課程がチョラロンコン大学ではじめて開設された。(ＭＳＮ)

— ２年のＢＳＮ学士課程がチェンマイ大学で開設された。(ＢＳＮ)

— 1977年には、２年の修士課程がマヒドル大看護学部で開設された。(ＭＳＮ)

— 1978年には、２年の学士課程がコンケン大看護学部で開始された。(ＢＳＮ)

(2) 看護教育の類型

1) 看護基礎教育 (Basic Nursing Education)

2) 基礎後看護教育 (Post-Basic Nursing Education)

1) 基礎看護教育の種類

① 看護・助産・公衆衛生のディプロマコース　3 1/2年間。

入学資格：diploma in grade 12 (ＭＳ５)

② 看護・助産のディプロマ２年間。

入学資格：diploma in grade 12 (ＭＳ５)

③ 看護・助産のディプロマ (テンポラリー) ２年間。

入学資格：diploma in practical nursing, practical nursing and psychiatry, practical nursing and midwifery, midwifery, midwifery and health.

④ 看護・助産のディプロマ４年間。

入学資格：diploma in grade 12 (ＭＳ５)

⑤ 看護学士コース B.Sc.Nursing ４年間。

入学資格：diploma in grade 12 (ＭＳ５)

2) 基礎後看護教育の種類

基礎教育後看護学校への入学要件は、一般看護に関するディプロマまたは証明書と、さらに看護婦としての2年の経験とが必要である。学士コースに入りたいものはgrade 12を終了していることが要件である。

① 看護教員（Sister tutor）証明書。1年間

② 公衆衛生看護の学士号、B.Sc、2年間。

③ 看護教育の学士号、B.Ed (Nursing)、2年間。

④ B.A.(Nursing)、2年間。

⑤ B.A.(Nursing Education)、2年間。

⑥ B.A.(Nursing)、2年間。

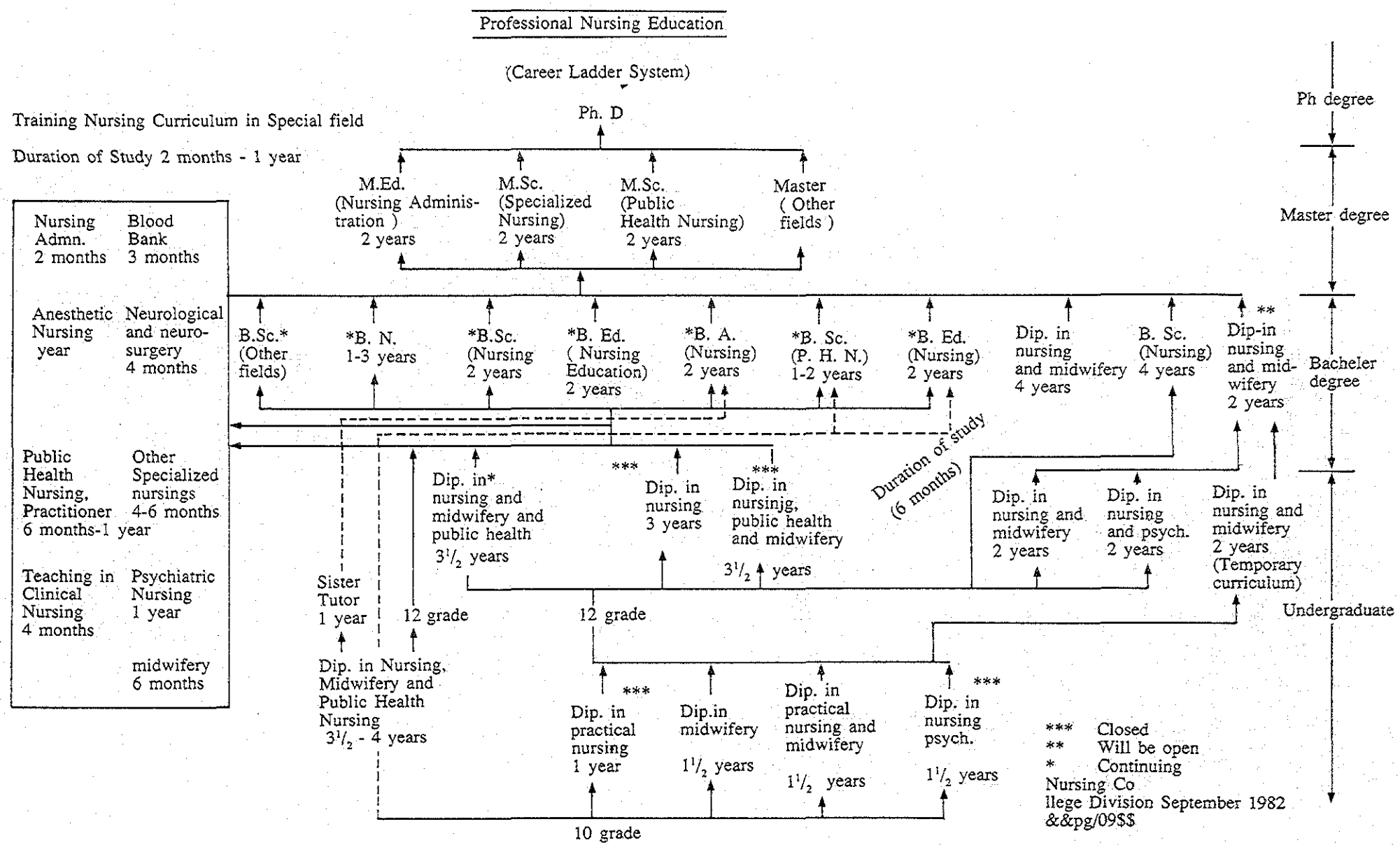
⑦ 看護学士号，B.N.、1年間。

修士課程には以下のものがある。

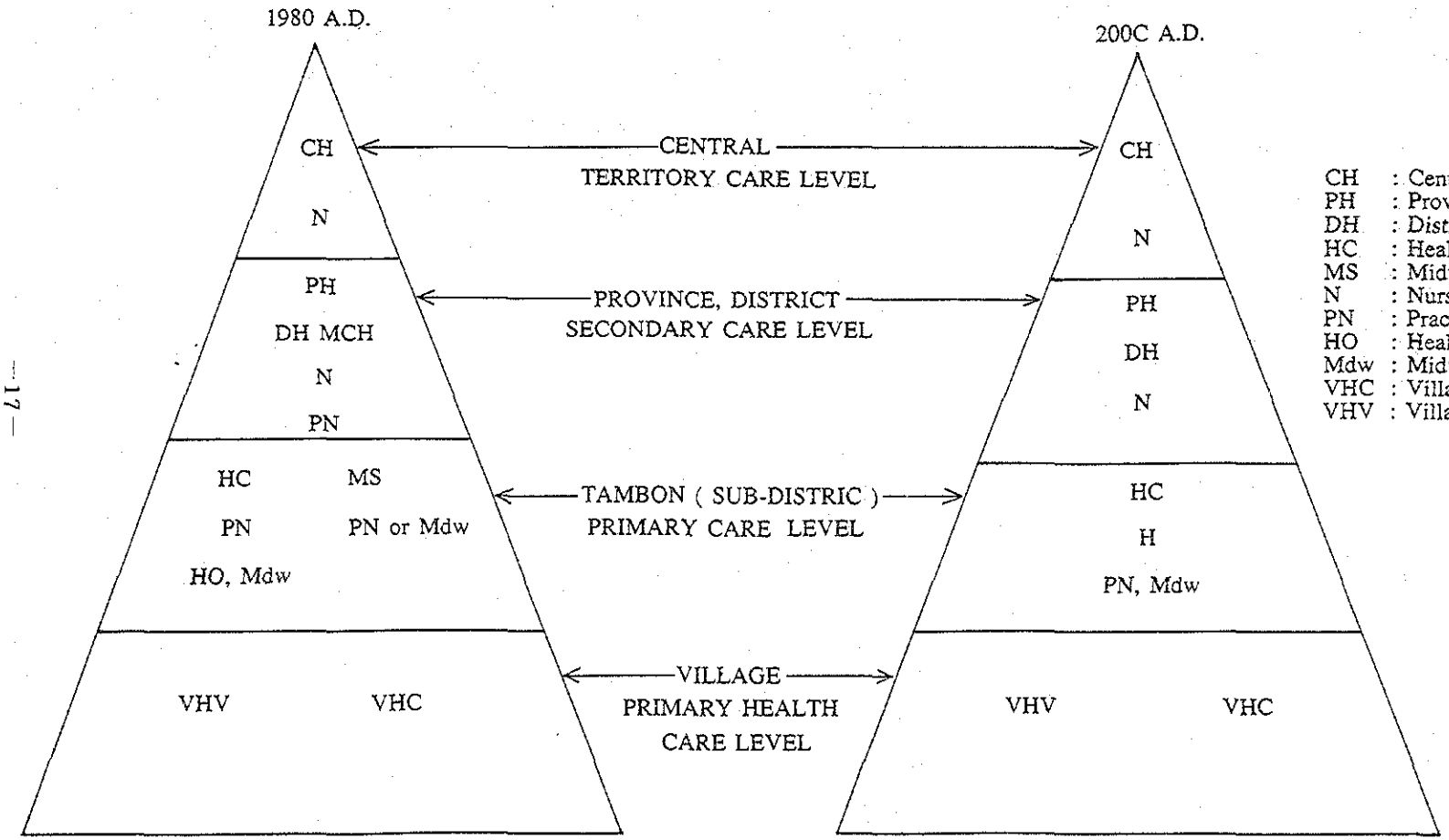
① M.Sc (Specialized Nursing)、2年間。

② M.Sc (Public Health Nursing)、2年間。

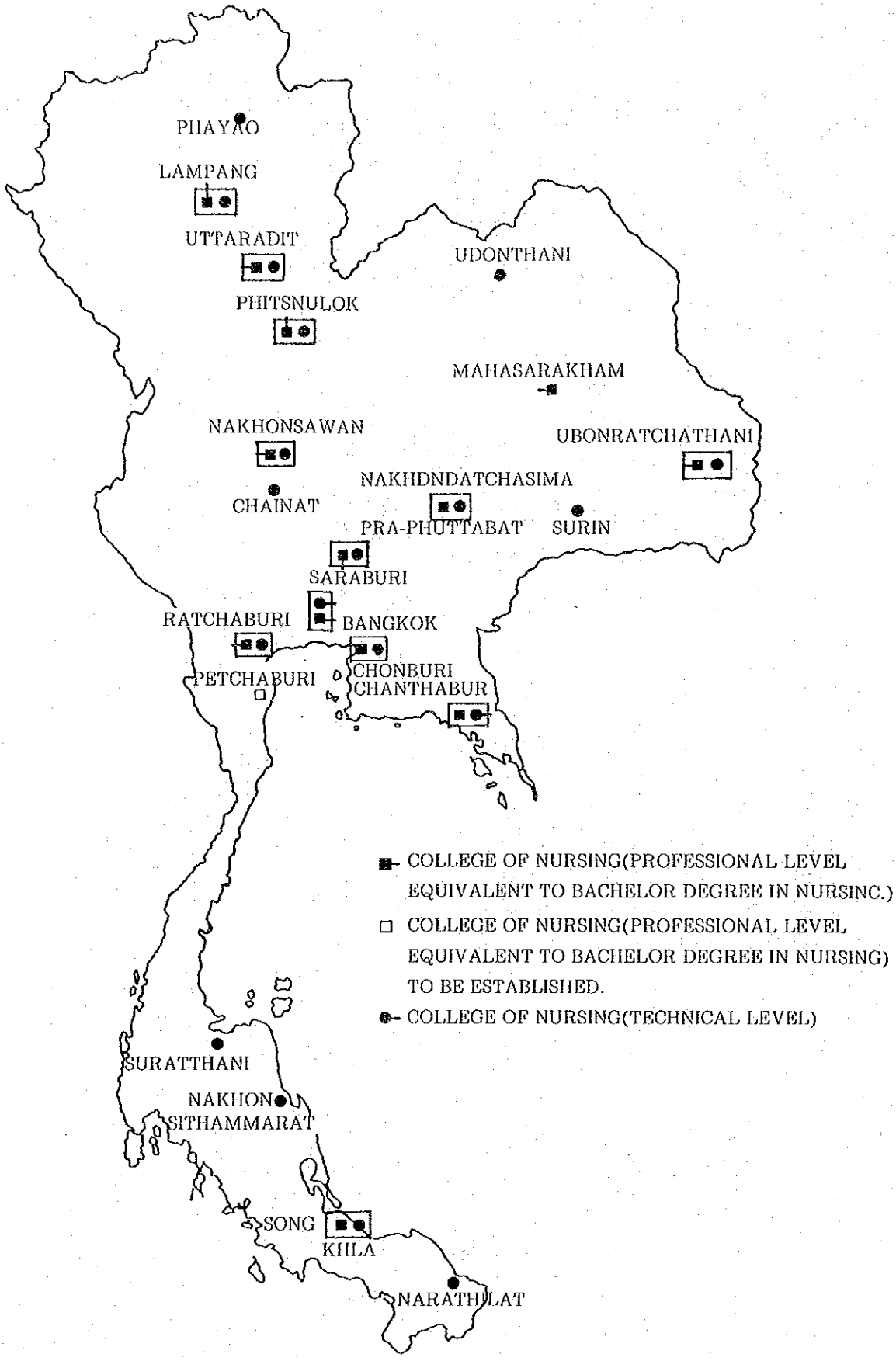
③ M.in Nursery Administration and Educational Administration、2年間。


Professional Nursing Education
(Career Ladder System)
Training Nursing Curriculum in Special field
Duration of Study 2 months - 1 year
Nursing Admn. 2 months
Blood Bank 3 months
Anesthetic Nursing year
Neurological and neuro-surgery 4 months
Public Health Nursing, Practitioner 6 months-1 year
Other Specialized nursings 4-6 months
Teaching in Clinical Nursing 4 months
Psychiatric Nursing 1 year
midwifery 6 months
Ph. D
M.Ed. (Nursing Administration) 2 years
M.Sc. (Specialized Nursing) 2 years
M.Sc. (Public Health Nursing) 2 years
Master (Other fields)
B.Sc.* (Other fields)
*B. N. 1-3 years
*B.Sc. (Nursing 2 years
*B. Ed. (Nursing Education) 2 years
*B. A. (Nursing) 2 years
*B. Sc. (P. H. N.) 1-2 years
*B. Ed. (Nursing) 2 years
Dip. in nursing and midwifery 4 years
B. Sc. (Nursing) 4 years
** Dip-in nursing and mid-wifery 2 years
Duration of study (6 months)
Dip. in* nursing and midwifery and public health 3 1/2 years
*** Dip. in nursing 3 years
*** Dip. in nursinjg, public health and midwifery 3 1/2 years
Dip. in nursing and midwifery 2 years
Dip. in nursing and psych. 2 years
Dip. in nursing and midwifery 2 years (Temporary curriculum)
Sister Tutor 1 year
12 grade
12 grade
Dip. in Nursing, Midwifery and Public Health Nursing 3 1/2 - 4 years
*** Dip. in practical nursing 1 year
Dip.in midwifery 1 1/2 years
Dip. in practical nursing and midwifery 1 1/2 years
*** Dip. in nursing psych. 1 1/2 years
10 grade
Ph degree
Master degree
Bacheler degree
Undergraduate
*** Closed
** Will be open
* Continuing
Nursing Co
llege Division September 1982
&&pg/09$$

Public Health Service Level (Health Facilities)



CH : Central Hospital
PH : Provincial Hospital
DH : District Hospital
HC : Health Center
MS : Midwifery Station
N : Nurse
PN : Practical Nurse
HO : Health Officer
Mdw : Midwifery
VHC : Village Health Communications
VHV : Village Health Volunteers


PHAYAO
LAMPANG
UTTARADIT
PHITSNULOK
UDONTHANI
MAHASARAKHAM
NAKHONSAWAN
UBONRATCHATHANI
NAKHDNDATCHASIMA
CHAINAT
PRA-PHUTTABAT
SURIN
SARABURI
RATCHABURI
BANGKOK
PETCHABURI
CHONBURI
CHANTHABUR
COLLEGE OF NURSING(PROFESSIONAL LEVEL EQUIVALENT TO BACHELOR DEGREE IN NURSINC.)
COLLEGE OF NURSING(PROFESSIONAL LEVEL EQUIVALENT TO BACHELOR DEGREE IN NURSING) TO BE ESTABLISHED.
COLLEGE OF NURSING(TECHNICAL LEVEL)
SURATTHANI
NAKHON
SITHAMMARAT
SONG
KHLA
NARATHIAT

2．ＮＣＤの機能

1) 一般的背景

ＮＣＤは、看護教育の養成、保健省内におけるさまざまな部課に必要な看護婦を養成する責任と義務をもつ。

教員養成は、保健省以外の学校で不足な場合にも養成を行ってきた。

かつては、看護婦養成校は医務部の下にあって医務部のためだけに必要な養成が目的であった。その後委託計画が出され、保健医療部教育課は、保健省次官補部局に活動、予算その他を委ね、1974年12月10日、国王関与の委託計画により、ＮＣＤが運営することとなった。

ＮＣＤ管轄の学校は以下の通りである。

① 教員養成校　　1校：Bangkok

② 4年課程・2年課程併設　12校：Bangkok, Phitsanuloke, Nakornratchasima, Chantaburi, Songkhla, Ubmratchatimi, Nakornsawan, Lampang, Chonburi, Saraburi, Rachaburi, Uttaradit,

③ 4年課程のみ　　1校：Srimahasarakham

④ 2年課程のみ　　8校：Narathiwat, Surattani, Udonthani, Surin, Chainat, Pra-Phuttabat, Phayao, Nakhonsithammarat.

2) ＮＣＤの責任

ＮＣＤは、保健開発計画にしたがって、看護教員、看護婦の養成に義務と責任を有する。

① 看護教員、看護婦その他の看護要員に関して、教育計画、業務規定（Job Description)、統制、カリキュラム開発

② 看護教員や看護教育にかかわる者に関して、看護教育訓練および教育管理についての知識を与え能力を高める。

③ 教育及び関連問題の研究により、教育開発および教育計画に寄与する。

④ 全国にわたり、看護婦の訓練およびサービスの効率性をはかる。

⑤ 看護婦の訓練及びサービスについて、部、課、病院等と協力し合う。

3) 責任の範囲

ＮＣＤは、4つの部門に分けられる。

① 管理部門

② 学術部門

③ 計画及びプロジェクト部門

④ 運営部門

4) 看護教育体制

プログラム1　集中看護プログラム、4ヶ月

資格：Dip. in Nursery and Midwife

バンコク市外の病院で、看護サービスを行っているものに専門訓練を行う。このプログラムの終了者は、臨床指導者が大巾に不足しているためにその代りとして、実習施設で学生を教えることができる。

プログラム2　看護教員、1年

資格：Diploma in Nursing

プログラム3　看護教員、B.Ed (Nursing Education) 2年

資格：Diploma in Nursing and midwifery

1975年以来、このプログラムは保健省と Srinakarindharaviroy 大のB.A. in Education (Nursing Education) とが提携をもち承認されているものである。

プログラム4　看護・助産婦、4年または2＋2年、147単位

資格：Grade 12 diploma (高卒)

プログラム5　看護・助産婦、2年、80単位

資格：Grade 12 diploma (高卒)

プログラム6　看護・助産婦 (Temporary)、2年

資格：Diploma in practical nursing, Practical nursing and midwifery, practical nursing and psychiatry, midwifery and health

プログラム7　継続プログラム学士相当、6ヶ月19単位

資格：Diploma in Nursing and midwifery　$3\,^{1}/_{2}$ years from senior high school (Grade 12)

プログラム8　助産婦　6ヶ月

資格：Diploma in practical nursing

プログラム別学校数（全部で21校）

B.Ed	1
教員1年	1
看助4年	13
看助2年	20
看助テンポラリー2年	15

他のプログラムについては、プログラム4の＋2年は1986年開始、プログラム6は1980年よりまた、1985年よりTechnical levelのNurseのために大学教育が計画されている。

V. プロジェクトの評価

1. 中堅技術者養成

中堅技術者養成の目的はタイ国内の看護教育および看護実践の水準を上げることにあり、このプロジェクト開始前から実施されていた。主な内容は看護教育に関するものと、臨床看護に関するものに大別できる。セミナーや、ワークショップの形態ですすめられ、対象者の役職や専門領域の別により内容が選択される。

プロジェクト開始後のワークショップは、かなり焦点化されたものになり主にＡＶ教材作成と、タイ語のテキスト作成に主力が注がれるようになった。1980年から現在までのワークショップやセミナーへの参加者は総数で1,088名である。

このワークショップによって作成されたテキストブックは、1980年度は「内科・外科看護」のⅠ・Ⅱ・Ⅲの３部で3,000冊、1981年に公衆衛生看護や婦人科看護、1982年には精神科看護、小児科看護と年ごとに科目や領域を拡大し冊数も1984年末には17,500冊となった。

これらタイ語のテキストブックは、ＮＣＤの所管下のNursing-Collegeや実習病院に配布され、看護学生や臨床指導者に活用されている。

ＡＶ教材作成のワークショップでは、日本で研修を受けた技術者（ＮＣＤ所属）と各 Nursing College の教員が協力し、自国の教材として活用可能な作品に近づける努力をしている。またＡＶ教材作成の過程では、日本で研修を受けた看護教員が専門分野ごとにアドバイザーとして参加しコメントを加えているなど協力体制が組まれている。

完成品としてのＡＶ教材は総数で22本であり、１本のVideo-tapeは大体20分から30分程度でナレーションはすべてタイ語である。

このうち「包帯交換」と「酸素吸入」を視聴できた。ＡＶセンターの技術者の機器操作のテクニックはかなり熟練しており、カメラワークはかなり高い水準に達している。ただし、より専門的で高度な技術には到っていない。視聴できた２本の教材についての感想を述べるならば、まず看護の内容を盛りこみすぎており、このＶＴＲ教材で何を学ばせようとしているかが不明確になっている。もっと内容の焦点化をする必要があると感じた。また実技指導におけるデモンストレーションの欠点を補強する教材という観点からみると、細かい手技の部分のズームアップのしかたなど再検討が必要である。

このように部分的に課題のある未熟なＶＴＲ教材を用いて教育をすることには危惧があり、活用するとき教員が十分に注意してフォローしなければならないと感じた。

また何本作成してもこのように未熟な作品になるのか疑問のあるところであるが、これは多分、毎回のワークショップの参加者が新人であり、スタディとしての作品となるためではないかと考えられる。よい教材を作るためには、十分な訓練をうけた教員がチームを組んで集中的に制作に

とりくみ、新人へのスタディとしての作品とは別に作るべきではないかと考える。

タイ国の看護教育現場の状況から考えると実習室の教材の不備、テキストや参考図書の不足、学生数に対する教師数不足などから、実技指導の面でＶＴＲ教材は欠くことのできない重要な意味をもっていると考えられる。今後は救急救命に関する内容や基本的看護ケアの分野のものなど４－５本のVideo-Tapeを追加する必要があると考える。

またタイ語のテキストブックもまだ全領域にわたって完成しておらず、特に看護管理のテキストはない。そしてすでに作成したテキストの内容が時代に合わず、改訂や一部修正をしなければならないものも数点ある。

以上のようにワークショップによって得られた成果は大きいが、ＡＶ教材とテキストブック作成は、前述のとおり継続する必要があると考える。

中堅技術者養成では、常に新人を参加させ参加者延数を増すのではなく、一貫した方針で継続参加させるようにし、知識や技術の定着を図り、参加者が学んだ内容を他の人に普及させることが最も重要であり、長期的にみて成果を上げることになるものと考える。

２．研修員受入れと帰国研修員の活動

現在まで（1984年２月）にプロジェクトのカウンターパートとして受入れた研修員は15名である。これら研修員の選考は看護教育課で行なっている。

研修期間は長期（11～12ヶ月）と短期（３ヶ月程度）があり、これは各研修員の役職や将来の活動等によって決まる。

15名のうち13名は看護教育の専門家であり、長期研修員は７名、短期研修員は６名である。２名（長期）は現在研修中である。長期７名の研修員の専門領域には多少の偏りがみられる、すなわち内科・外科看護が４名と多く、精神科看護１名、小児看護１名、地域看護１名となっている。

15名のうち２名は視聴覚教材制作とこれらにかかわる機器材料の管理の専門家であり、この２名は看護教育課に所属するＡＶセンターで専門技術者として、主に教材制作やそのコピー等の面で活躍している。

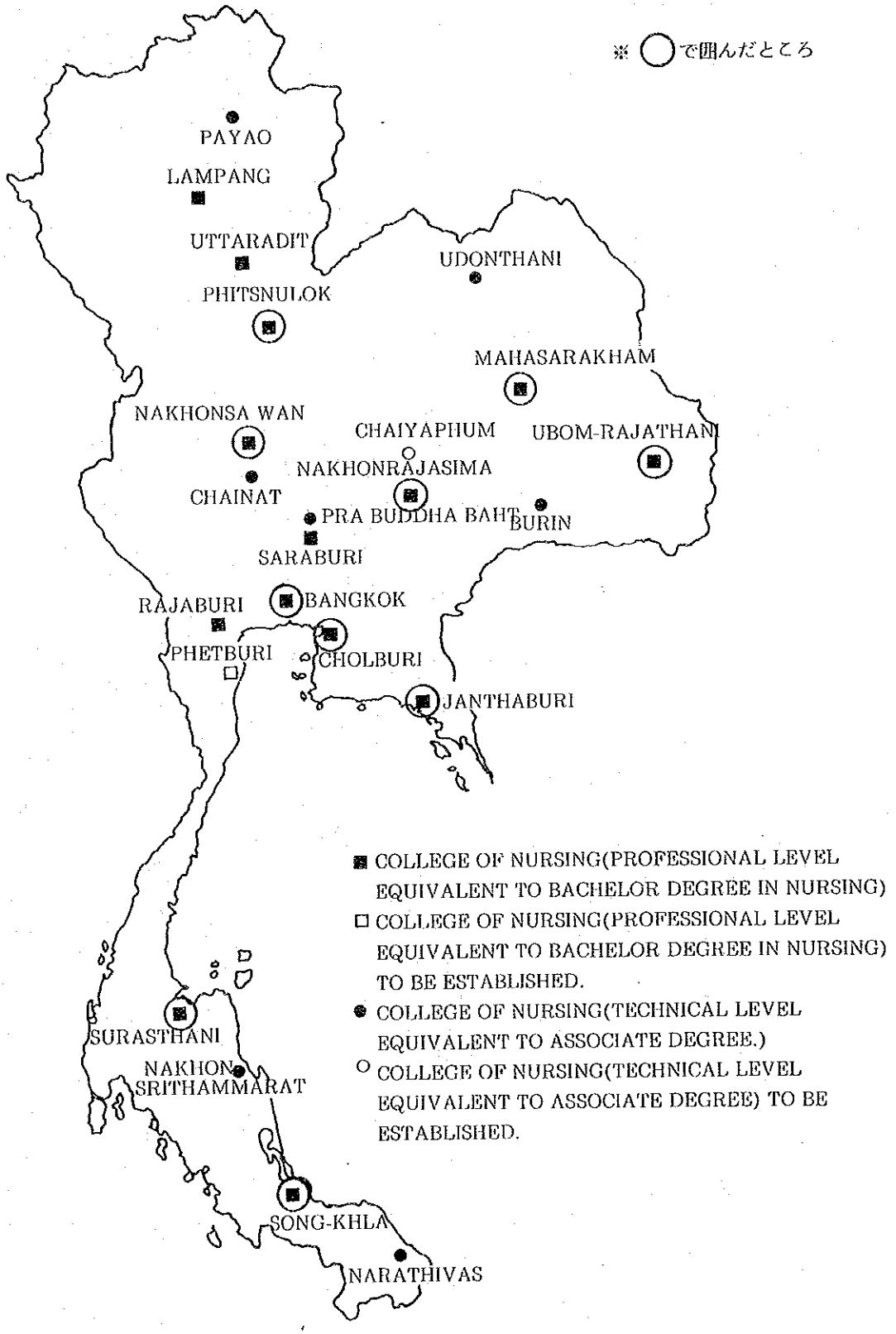
現在研修中の２名を除く11名の看護教育専門家は、看護教育の行政官としてまた、タイ国内の４年制Nursing Collegeで学校管理者および専任教員として看護教育に従事している。

（表、海外研修生受入状況）

研修員は帰国後は国内の中堅技術者養成のためのワークショップでは指導的役割を果たしている。特に自分の専門領域に関しては、日本から派遣された短期専門家と協力し、調整的役割を引き受けている。またテキスト作成（英語テキストをタイ語版にする）にも、スライドやビデオ教材の制作にも専門領域別に積極的に参加し、先に述べたＡＶセンターの専門技術者と意見の交換や助言をしている。

（EVALUATION REPORT — ANNEX 1. p.10）

帰国研修員の勤務する Nursing College 一覧



長期研修

海外研修生受入状況

年度	研修生氏名	国籍	年齢	現職	研修内容	センター内研修期間	備考
56	Miss WARASRI POONTONG	タイ	44	Head of Nursing Educational Service Chonburi Nursing College	看護教育	昭57.1.6- 5.20	
	Mrs SAJEE ANUNNOPAKUN	タイ	42	Head of Student Service Department College of Nursing Songkhla Ministry of Pulic Health	看護教育	昭57.1.6-10.20	
	Mrs NANGNOI RATANACHATA	タイ	48	Teacher and Clinical Instructor Nakornrajsima Nursing College	看護教育	昭57.1.6-10.20	
57	Mrs COMWAN WEESAPEN	タイ	47	Head, Department of Psychiatric Nursing Nursing College Division of Nursing Education Ministry of Public Health	精神科看護	昭58.1.6-10.17	
58	Mrs TUENCHAI KANTISIT	タイ	41	Head, Academic Department Sawanpracharuk Nursing College Ministry of Public Health	内科・外科看護 （心臓・血管系疾患を中心に）	昭59.1.6- 1.27 59.3.3-11.20	
59	Miss RANUWAN HANVARIT	タイ	41	Head Community Health Nursing Department Ministry of Public Health	地域看護	昭60.3.4-10.19	
	Miss WANNA JOESEN	タイ	40	Head Obstetric Nursing Ministry of Public Health	小児看護	昭60.3.4-10.19	

短期研修

年度	研修生氏名	国籍	年齢	現職	研修内容	研修期間	備考
55	Mrs PAGA SRIYUKTASUTH			Director, Nursing Colleges Division	看護教育	昭55.11.30-12.13	
57	Mrs CHALAM PAUNGCHAN	タイ	52	Director Buddhachinaraj Nursing College Ministry of Public Health	看護教育	昭58. 1.31- 3. 3	
58	Miss KANCHANA SANTIPUTANACHAI	タイ	40	Nursing Educator The Ministry of Public Health	看護教育	昭58.11. 7-12.17	
	Miss PROONG KOMARATAT	タイ	50	Director Pra Pok-kloa Nursing College	看護教育	昭58.11. 7-12.17	
59	Miss BOONPRAKONG BATPUTTANA	タイ	50	Acting Director, Sri-Mahasarakham College of Nursing Nursing College Division Ministry of Public Health	看護教育	昭59.10. 6-11.17	
	Mrs SOMSBE SANGCHAM	タイ	53	Director, Chonburi Nursing College Nursing College Division Ministry of Public Health	看護教育	昭59.10. 6-11.17	

年度別研修員受入数

年度		1980	1981	1982	1983	1984	計
看護教育専門家	短期	1	—	1	2	2	6
	長期	—	3	1	1	2	7
A－V専門家		—	1	1	—	—	2
計		1	4	3	3	4	15

1984年12月28日には帰国研修員が、はじめて一同に会してプロジェクト主催の研修に関する評価会議を行っている。そこで話し合われた内容は、日本での研修の成果が大きかったことおよび、今後も帰国研修員のこのような会議を継続してもちたいということであった。

このような実態から、研修員はそれぞれの専門に応じる能力を身につけているものと考えられるので、今後はもっと積極的に帰国後に実力を発揮させるチャンスを与え、よい動機づけをしていけばタイ国Nursesの中核となり、看護教育および看護ケアの質の向上に大きく貢献できるものと考える。具体的には帰国直後に研修報告会をさせ、責任を自覚させるとともに未研修の人たちに刺激を与えるなどの方法も考えられるが、このような方針をうち出し推進していくのはＮＣＤの役割であると考える。

研修の成果は上っているとはいえ現在までの帰国研修員の数は、タイ国内の Nursing-College の数（21校）にも満ちておらず、専門領域にも偏りがあり十分に機能できる状態とはいえない。またスリーマハサラカンNursing-College からは長期研修員が出ていないことも残念である。各 Nursing-College で帰国研修員が中核となることを期待するならば、将来的に成長する能力があり、何よりも学習意欲のある研修員の人選が望まれるところである。

３．看護教育カリキュラム

タイの看護教育制度は、大学省がもつ、大学看護学部と保健省のもつ看護学校と、二系統ある。

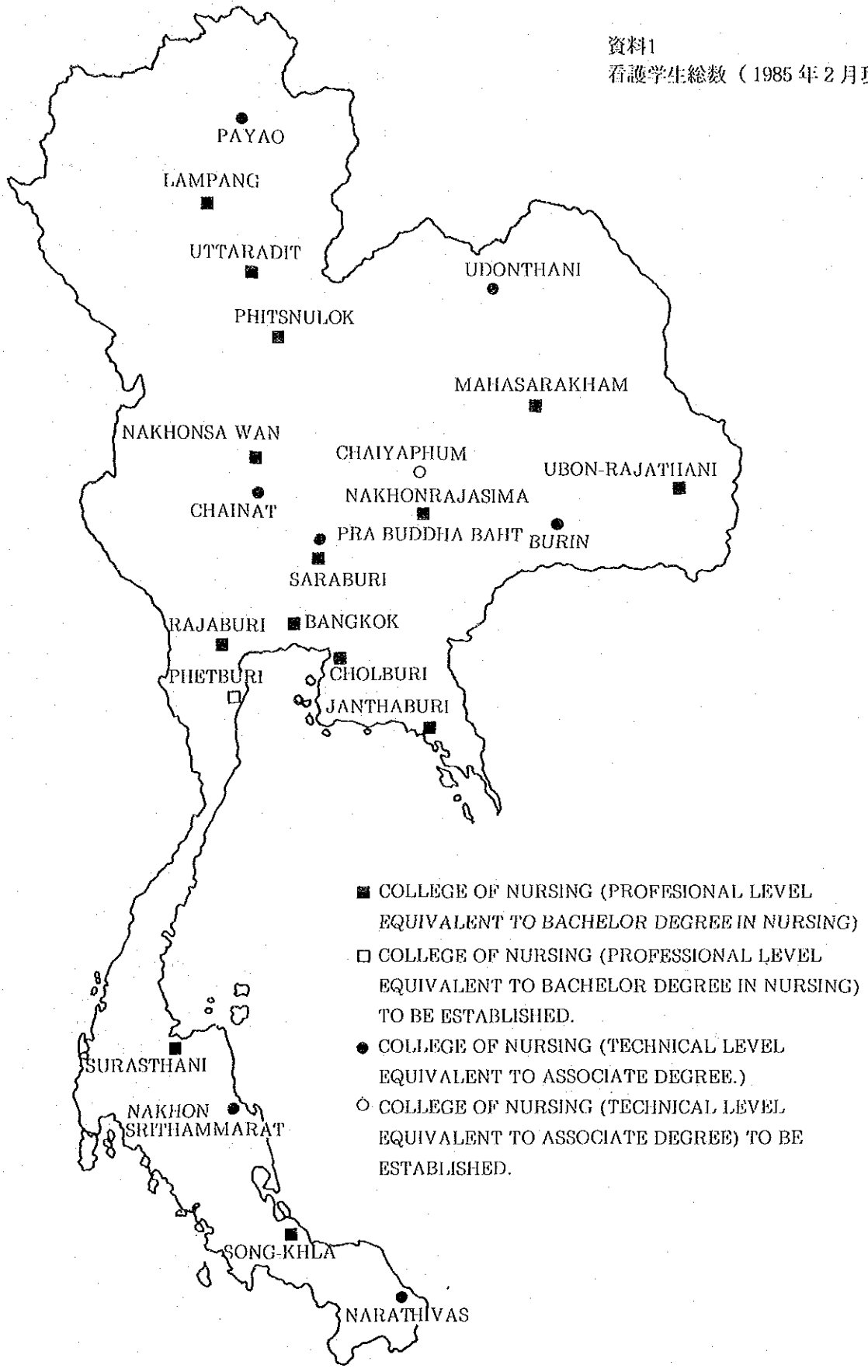
現在、保健省のもつ看護学校は４年制大学（13校）と２年制短大（８校）の21校である。保健省は1977年（昭和52年）看護教育カリキュラムの改正を行なった。その背景には、タイ国の保健医療上の諸問題、出産率（30／1000　1981年）が高く、乳児死亡率（53　1981年）も高い等々、問題があり、保健に関する状況を改善すべく、特に農村部におけるマンパワーの開発と保健医療サービスの向上を目標とし、看護婦教育の質的向上が計られた。

従来の看護婦教育制度は、①高卒プラス3.5ヶ年の教育と、②中卒プラス1.5年の教育であったが、①の3.5年の教育を４年制にし、1980年（昭和55年）からはじめられ、3.5年制の卒業生のためには1977年から６ヶ月の補足教育が行われた。② のコースの1.5年の准看護婦教育は1980年限りで廃止し、1980年からすべて、高卒プラス２年のカリキュラムに改善された。２年制のTechnical Nurseが、４年制のProfessional Nurseになるためには、一定試験合格後、４年プログラムの３年に編入できる。４年制のプログラムは、大学看護学部の教育と同等であり、同じ､147クレジットである。

４年制の看護教育カリキュラムは、プライマリーヘルスケアーを志向し、従来の病院中心のものから、地域を含めた、総合カリキュラムに精選されている。１、２年では基本的看護技術及び一時的疾病に対処できる知識技術を習得し、３、４年では、より複雑な疾病やケースに対処でき、またCommunity careができる知識や技術を習得する。

さらに新しい試みとして、Community Oriented Nursingカリキュラムが、1985年から５校で実

資料1
看護学生総数（1985年2月現在）



ANNEX 6

Number of Instructors, Nursing Students

of

Nursing and Midwifery (A Four Year Program)

Nursing and Midwifery (A Two Year Program)

Nursing Colleges, Nursing Colleges Division

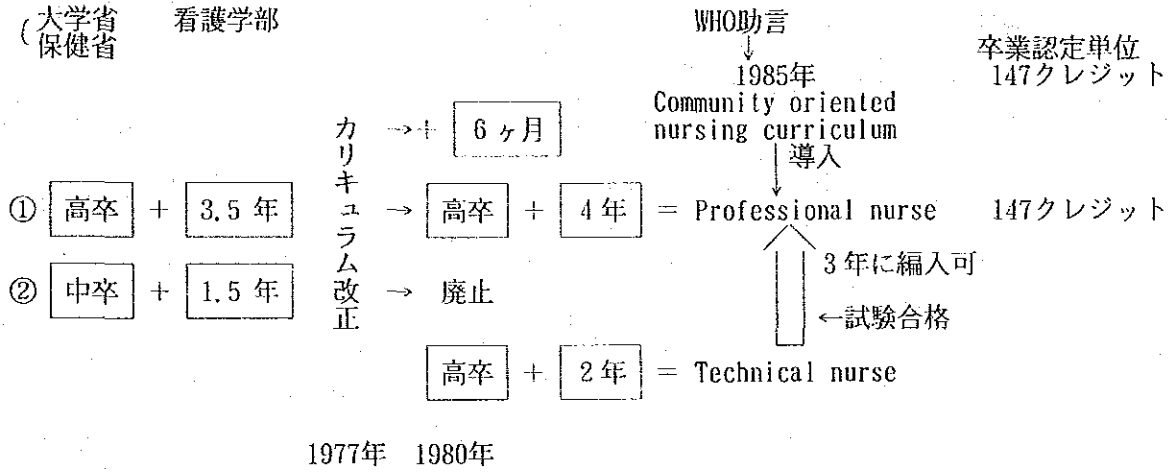
Ministry of Public Health

Number / Year	1980	1981	1982	1983	1984	Remark
Instructors	423	470	510	599	619	
Students's Enrolled	1728	2320	3289	4830	4532	
Graduates	524	810	2032	2709	4155	Drop out less than 4%

施される予定であり、一層Community careが強調されたカリキュラムである。このカリキュラムについては、W.H.O.の助言を受けている。

現在21校で学ぶ学生総数は12,779人である。1980年からの入学生、卒業生の数は資料のとおりである。以上、カリキュラムに関する概括であるが、1977年にカリキュラム改善を行い、1980年から実施、精力的にその内容も充実すべく、教材作成（ビデオテープ22巻、スライド12本、テキストブック14項目17,500冊）、中堅技術者の養成、ビデオ作成、中堅技術者養成のワークショップに帰国研修員の活用を工夫し、努力している。その熱意は並々ならぬものがある。しかし、看護研究において、現カリキュラムの評価を十分に行ない、その結果を新しいカリキュラムに生かしていくならば、なお確実な改善となるであろう。また、制度は変わっても、4年制・2年制の学校の規準が明確にされていないので、整備される必要があろう。

タイ国看護教育制度



4．派遣専門家の活動

(1) 長期専門家の活動

長期派遣専門家は調査時には2名で、2名とも1985年7月末日の5ヵ年を経過した時点で帰任する予定となっていた。長期専門家にはプロジェクトを円滑に進行させるために、NCDの意向をくみながら目標に沿った活動を展開し、実施し、評価するという管理的な役割がある。

長期専門家2名の努力により、タイ－日本の二カ国関係はよい。プロジェクトの実施項目について、長期専門家の報告から判断すると、各項目の到達目標が明示されてはおらずむしろ、あれもやったこれもやったということで、実績に置きかえられており、それで評価をしてほしい、という内容が主であった。したがって、プロジェクトの延長の可否を判断するのに必要な目標への達成度、残された問題点・課題等が十分に把握できにくい状況で、すでにタイ側は、次の5ヵ年延長の提案を準備していた、という実態であった。

タイ国内には他にも日本側から保健医療関係のプロジェクトがあり、PHCのAsian Center

専門家派遣実績

▼　▼▼　▼　▼

(分野・年度別)	1980年度 前	1980年度 後	1981 前	1981 後	1982 前	1982 後	1983 前	1983 後	1984 前	1984 後	1985 前	計
コーディネーター		1	1 ～		1	1						4
看護教育　長期					1 ～		2 ～		2 ～		2 ～	7
短期		2		1	1	1		3	1	1	1(予)	10
A　V　ハード					1		1					2
ソフト				1			1					2
計	3		3		6		7		4		3	26
(派遣者・年度別)												計
ｺｰﾃﾞｨ　ﾏｻﾒ (計画調整)		1	1 ～		1							3
ﾈｰﾀｰ　ﾃﾗﾆｼ(業務調整)						1						1
看護　ﾋﾋﾞﾉ (看護教育)					1 ～		1 ～		1 ～		1 ～	4
教育　ﾂｼﾏ (看護教育)							1 ～		1 ～		1 ～	3
ｳｴﾀﾞ (看護研究)		1			1			1			1(予)	4
ﾆｼｳﾗ(看護教育)		1										1
ﾋﾋﾞﾉ (看護教育)				1								1
ｻｻｷ (小児看護)						1						1
ｶﾄｰ (精神看護)								1				1
ﾐﾔｿ (看護研究)								1				1
ｷﾊﾞ (地域看護)									1			1
ｱﾗｲ (看護学校管理)										1		1
AV　ﾀｶｷﾞ (AVハード)					1		1					2
ｳｼﾔﾏ(AVソフト)				1			1					2
計	3		3		6		7		4		3	26

(分野別)

コーディネータ	2
看護教育	9
A　V	2
計	13人

(期間別)

長期	3
短期	11
計	14人

▼　調査団：事前1977.7.，　実施前1980.6.，　実施1980.7.，　計画1983.5

が建設されていること等から、プロジェクト間の協力により、効率を高める方法も考えられる。

また、技術移入については、研修員による日本での修得技術を、タイ側で移入できるように、ワークショップなどを利用した伝達の機会を作るとか、何らかの方法を講じて、技術移入をより確実にする必要もあろう。

また、長期専門家は研究、ＡＶ助言など多目的で仕事のできる人が必要となろう。

専門家側からの評価として、長期専門家はプロジェクトの発足初期から必要である、スリマハサラカム内教育充実のために専門家をおくべきである、専門家にはコーディネーターが必要である、長期ではタイ語の習得が必要である、等の意見が出された。

これらの経験をよい機会として、長期専門家の役割について、具体的に明文化する必要があると思われる。

(2) 短期専門家の活動

短期専門家はタイ側要請により中堅技術者研修において講師としてその役割を果たしている。短期専門家は、タイ国における中堅技術者研修の位置づけ、目標、参加者、到達レベル等について、十分な準備を経て参加する必要があろう。これらの点について長期専門家から意見が述べられた。

タイの実情を理解するには社会的文化的側面、医療制度の側面など幅広い知識が必要であるが、その役割は、日本の実情を講義するのみでなく、原則的な事項をふまえた上での相手国への示唆なり、提言なりが必要となるのではなかろうか。

5．看護教育に関する研究

(1) 研究の概要

研究テーマは、Longitudinal Evaluation of 4 year nursing education programme, 1981～1985となっており、４年制看護教育の動きをみるためにプロジェクトの研究としてとり組みがなされた。これはＮＣＤ発足以来はじめての長期研究となっておりすでに、１年目、２年目の論文が完成している。この指導のため、短期専門家が連続してかかわってきている。

方法は主として質問紙による実態調査で、1981年に入学した対象学生を経年的に追跡し、年次に合わせて新しい項目を追加している。

調査内容は、看護職に対する学生の意見、学生の学習達成に係わる教育条件や要因に関する学生の考え方等である。調査結果は、その都度、教育面に反映したり、修正を加えたりしているということであった。

また、教育や研究、行政に不可欠な看護統計資料は不備であるとの実情があり、この研究にかかわっている短期専門家の意見は、モデル校を設定して、そこで看護教育研究をするべきだ、各学校には、優秀な教員もいるので、それらを研究に参画させるべきだ、等であった。

(2) 今後の研究について

現研究は、1985年の新卒業生を卒後２年間フォローする迄必要とされている。

前記のような点をふまえて、もっと教育内容や方法に密着した部分での基礎資料が得られるような研究を期待したい。

6．看護学校の実際　真覚富士子

(1) マハサラカム看護学校

調査団はバンコク到着の翌朝、空路コンケン経由、カレッジの出迎えマイクロバスに乗り継いで、マハサラカム看護学校(Sri-mahasarakham College of Nursing) を訪れた。１泊２日の視察日程は、

２月17日	a.m.	カレッジの現状聴取
(Sun.)		学生へ挨拶、意見交換
	p.m.	カレッジの見学
		教務スタッフとの会合
２月18日	a.m.	マハサラカム県立病院訪問
(Mon.)	p.m.	Kosumpisai郡立病院訪問
		Chiengyuen村立病院訪問

調査団には日比野、津島両専門家、カウンターパートのMrs. Paga Settachan (Project Director), Miss Kauchana Sauenpattanachai, ＤＴＥＣのMr. Sueiu Susila, ＪＩＣＡ Bangkok Officeの当プロジェクト担当職員とＦＰプロジェクト・コーディネーターが同行した。

No.1 attached

STAFF OF SRIMAHASARAKHAM NURSING COLLEGE

A. 教員

1.	Miss Boonprakhong	Batputtana	Director
2.	Mrs. Srisumalai	Nimkhunthod	Head, Academic Section
3.	Mrs. Surat	Sodesiri	Head, Administration Section, Library, Inchart of Principles of Nursing
4.	Miss Tipawan	Pipatyothapong	Head, Educational Service Section, Inchart of Obstetric-Gynaecology Nursing
5.	Miss Maliwan	Yamsopa	Inchart of Community Nursing, Audio-Visual aid, library
6.	Miss Pojanee	Khembupha	Inchart of Community Nursing, Administration
7.	Miss Wannee	Tapaneeyakorn	Inchart of General Education, Medical Science, Pediatric Nursing
8.	Miss Pimcit	Chalermsuk	Community Nursing
9.	Miss Somchit	Sintuchai	Medical-Surgical Nursing
10.	Miss Somkhuan	Pimsean	Inchart of Psychiatric Nursing (on the way of Transferring)
11.	Miss Sutid	Worasiri	Inchart of Medical-Surgical Nursing (on the way of Transferring)
12.	Miss Wanida	Bunvisut	on the way of Placement
13.	Miss Ladda	Seansiha	Nursing instructor
14.	Mr. Narongsakdi	Khuubunya-arak	physical Education
15.	Miss Vinetra	Tumsnong	

B. 外来講師（県立病院医師、コンケン大学教授など）延100名以上

C. 一般職員

Permanent Workers	19
Temporary Workers	12
Volunteers	2 (Waiting for a position)
Accounting/Financial	1
Correspondent	1
計	35

1) マハサラカム看護カレッジ職員との協議

この会合には、カレッジ教員13名が出席した。初めにDirectorであるMs. Boonpnakong Batputtangが報告をおこなったが、無償資金協力に対する感謝と、教育環境の充実すべき点を述べた。(Report to the Evaluation Group)　　資料①

カレッジが教えている保健省看護教育課。カリキュラムは、大学のそれと同等であり、自主的なTeaching-Learningによっていることが説明され、ポイントがあげられた。

第1年　Principles of Nursing の徹底

第2年　Medical.Sugical Nursing, Basic Medical Care を地域の病院を含む、種々の条件下で学習。

第3年　Ob-Gy.Nursing の地域実習に大きな比率が置かれる。

第4年　より包括的、より高度のCommunity Nursingsの学習。

第1学年度より始められる学生の実習のため、実習病院の婦長、主任級の看護婦が招かれ講義をするとの連携が強調された。

一般的な質疑や、昼食時の会話、さらに校内見学で実状を理解のうえ、調査団は学校教員がかかえている点について聴取した。

① 教育効果をあげるため、学生に1冊ずつ各自の教科書を持たせたい。現在は1教科1～2冊の教科書がカレッジ図書館に備えられているのみである。

② ＡＶ教材の導入・制作のため、視聴覚教育の研修を日本で受けたい。

③ 日本の看護教育者、特に臨床指導者と相互交流するプログラムがほしい。

④ 教員不足、労働従事者の不足。

⑤ 指導・連絡につかう車輌用ガソリン代の不足

⑥ 学生の地域実習の安全を確保する宿泊施設が必要。(1ヵ所約150万円の建物が必要)

以上は教員同志のやりとりもありながら、個々が自由に意見発表をしたものと感じられた。調査団と専門家側から、②に関しマハサラカムに滞在したビデオ製作（software）専門家の直接指導を得た教員が他を指導すべきことが、その教員に対し直接提言された。

この聴取の際、2年のプロジェクト延長があれば、カレッジの多くの問題は、解決・改善されるだろうとのコメントがあったので、調査団長は、延長を検討するにはもっと確実で詳細な情報が必要な旨応じた。本省より同行したProject Directorが述べた点：

⑦ 県立病院の患者数は、看護学生の実習にふさわしい数を下廻り、従って十分な病院実習がおこなわれない。郡立病院や地域の保健所に実習の場をふやしたいが、学生を収容する施設(small house with 15 beds or so)が必要である。

⑧ 日本のGrand Didでhealth center建設が可能か否か（学生実習のために）。

以上①～⑧は無償資金協力（カレッジ）の場の技術協力（教育プロセス）以前の問題と思われた。個々の教員がかかえている教育上の共通問題のとりまとめをタイ側に求めたところ、D

ＴＥＣのMr. Sutin Susilaが要約した。

⑨ 1) 地域実習（１学年150名を９グループに分ける）に伴う前述の課題

2) 教員対学生の比率が不適切

3) ビデオ教材の自主製作を希望

4) さらにＡＶ機器供与、関連の専門家派遣を期待

5) 地域実習の場へのビデオ教材導入

6) Teaching-Learningの成果がわかる教材（ex. 心臓マッサージ人形）

7) 産婦人科人体モデルの不備

("only one", "not simple to use")

マハサラカム看護カレッジでの協議の終りにあたり、調査団長はカレッジに対し、教育の遂行にかかわる２点を質問し、タイ側は後程回答する旨を約した。(Minutesに記録)　資料②

調査団がマハサラカム看護カレッジの学生（第１、第２学年計300名のうち実習に出ていた者を除く約180名）と交わした質疑：

⑩ 1) 日本における地域の保健問題は何か

(65才を越える老令人口の増加、在宅寝たきり老人のケアを説明)

2) タイの看護学生、日本の看護学生の交流プログラムを（目下のプロジェクトでは不可、民間レベルなら検討可）

3) 看護学生に日本語レッスンの機会を

（コンケン大学の課程、講師にアプローチしてはどうか）

4) 地域実習における宿泊施設の整備等に援助してほしい（日本の技術協力による車輛が事態を改善したが、解決にはもっと手段がいる－タイ側回答；完全、快適な環境ばかり求めず、対応の方法を工夫するのも学習である－日本側回答）

(2) 無償資金協力及び技術協力の評価・考察

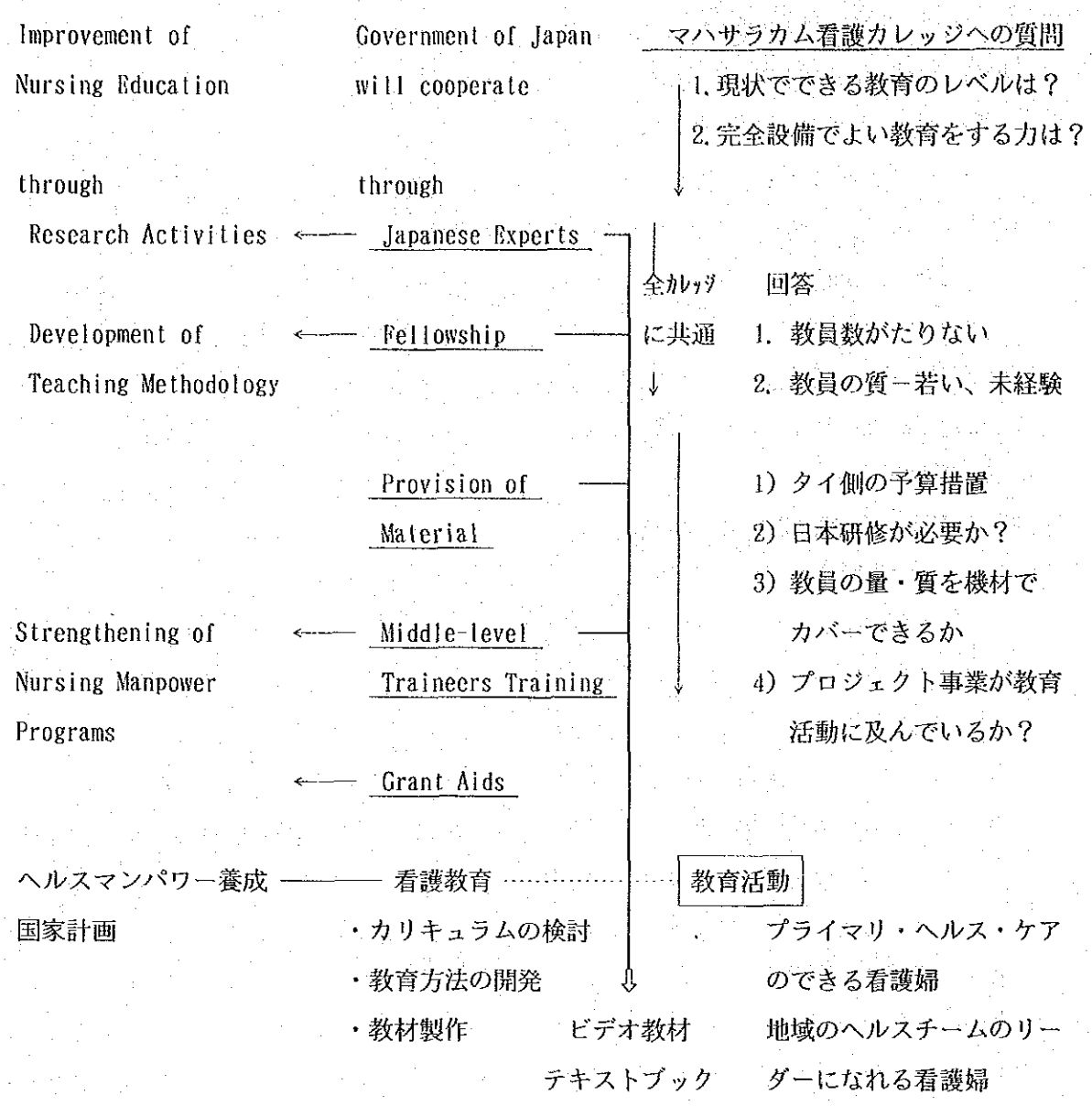
施設については、タイ側予算で未だ続いている環境整備の外は、教室等に大きな支障はない(Reference Budget 1985)。実験室の手洗場が学生数に比して少ないところが１室、実験室の椅子が木製丸椅子で顕微鏡製作等不自由である点が告げられた。面会者棟に便所がない旨調査団は訴えられたが、これはタイ側で処理すべき点であることを回答した。

無償資金協力枠の機材及び既設の機材の他に、要請機材のリストが調査団に提出された。バンコク駐在専門家のアドバイスを得て選択する必要がある。地域の健康教育のためにポータブル・モニター、バッテリー一式を求めているが、他の方法での工夫も必要であろう。

モデル校への願望、マハサラカム地域のセンター的役割の希求の故か、着実なプラン作りのためには個々、度々協力する専門家と、実行には現存の教育資源を使い与えられた環境で工夫を講じられる強力なカウンターパートの育成が求められる。

なお、当プロジェクト終了時点では、前述の教育上の課題の解決を促進すべきである。

カレッジが全機能を展開する時期、すなわち全学年が就学し、第1回卒業生を出す1987年までの（タイ側に作ってもらう）計画を、プロジェクト終了時点の前に作るべきであろう。



Sri-Mahasarakham, College of Nursing

Report to The Evaluation Group

February 17, 1985

Srimahasarakham, College of Nursing was donated by the Government of Japan as a token of friendship and cooperation between Japan and the Kingdom of Thailand. The handingover ceremony of the Buildings and Educational Equipments was held at the Ministry of Public Health Conference Room Main Building on February 28, 1983, 9.00 a.m. The Counselor of Embassy of Japan-Mr. Shigata, The Permanent Secretary, Ministry of public Health-Dr. Manasavi Unhanand, and the General Manager, Nishimatsu Construction Co. Mr. Isuzu Hayashi had signed for the Transfer of Ownership and turned over a Grand Master Key and a Miniature Model of the building.

Many people and officers in Mahasarakham province and the near provinces always come to look and very appreciate and gratitude to the help of Japanese to the thai people. They feel worry to us how to keep and maintenance the best as we have gotten with the low budget and manpower. We told them that we will do with all strength we have to keep it the best.

The Srimahasarakham, College of Nursing is very useful to the community. It becomes as a Training center. Many Training, Meeting, Seminar was arranged here, such as:

The year of 1983

The governor asked for seminar on the Family Planning in Mahasarakham. There are four ministry officers-Ministry of Interior, Public Health, Education and Agriculture came to the Seminar about 90 officers. The Deputy Governor was the chairman.

The Chief of Medical Officers and the Sanitation Center in Khonkhan asked for training the committees for Tombol in the poor area about the strategies of keeping clean water and sanitation. This is Primary Health Care element. They came from Roi-ed and Karasin Province. The first group 45 people, second group 56 The lecturer from Khonkhan Sanitation Center.

The Malaria Center trained 36 public health personnels about Research or Mephoguine. They came from Sakolnakorn, Nakornpanom, Mugdaharn, Mahasarakham, Karasin and Roi-ed Provinces.

The Director of Health Promotion, Technical and Service asked for training 150-trainers in the Tambol level.

- The Director of nine District Hospitals asked for recruitment the workers, driver etc. about 250 people came here and 180 people for the second time.

The Year of 1984

- Training 128 Public Health Officers in Tambol level about Immunigation and Dianheal controls.
- 50 Health Voluntcers for the isllages were trained by the Provincial Health Officers.

- The Faculty of Nursing, Konkhan University asked for the students and instructor staying in the for the students and instructor staying in the dormitory from April 1-May 19, 1984.
- The Faculty of Eolucation Chulalongkorn University asked for 30 students and instructor to stay in the dormitory for 3 days.,while they had a field practice.
- Sri-Nakarintraviroj University and Teacher College send the students in Educational Technology Department to practice in Audio-Visual Aids.
- The institutes asked for the chairs for meeting such as :-
- The Superior of Prison - House 200 chairs
- Kanasawadi College 500 chairs
- Sri-Nakarintraviroj 550 chairs
- Department of Highway 120 chairs
- Physical Education College 200 chairs
- The Chief of Provincial Medical Officers used The Auditorium for meeting the member of Co- Operation for saing money.
- The Governor asked for the Auditorium for Thammasat University Alummi meet and Table tennis Racing to select the representative of the 4th region.
- The Governor asked for 360 people who came to show on the Seventh Art and Cultural Performance.
- Leprosy Center Region 4, Khonkhan asked for 76 people academic meeting.

Many Educational Institutes such as Kanasavas College, Teacher College, Agriculture College, Srinakarintraviroj University and Government offices has borrowed chairs and educational equipments or they came to use in the Auditorium for ceremony activities even the people in Mahasarakham.

Therefore, You will realize that the help of Japanese government is spread out not stay still only in the Nursing College.

In the name of the people in Mahasarakham, we wish to extend to the Japanese Government our sincere appreciation for their valuable assistance in Nursing Education provided to Thai people. All your efforts in assisting and supporting have reflected your far-sight view and determined advocacy of public health development in this region both Medical and Nursing. It will involve to the target of Primary Health Care by our students even they are in the first year or second year student by suggesting with the knowledge they can such as Personal Hygiene or how to promote health and protect the diseases to the community especially rural area if we have a vehicle to go and residence to stay.

Finally, May we wish you all happiness, good health and safety back home.

Miss Boonpakong Batputtana Director

and

Faculties of Srimahasarakham, College of Nursing.

(2) チョンブリ看護学校

バンコクより南へ車で約1時間、1971年に設立されたチョンブリ看護学校を訪問した。この学校には、4年課程及び2年課程のNursing and midwifery のコースがある。カリキュラムの総単位は一般看護68、専門教育73、選択6、計147単位である。

教員との協議では、教室の中に日本での研修生がおり、意見を述べた。それによると日本でのＡＶ研修は教育のideaをselするのに役立っているという。

しかし、教員がそういう経験をしたという範囲にとどまっていて、他の教員に教えたりすること、自分で新しい教材をつくること等の役割を果たしたり、応用することが今後の課題であろう。

希望としては、①教材では心肺蘇生人形モデル、書籍、②グループのカウンターパートの受入れ、③看護技術教育のための専門家の派遣等が出された。

この後、regional hospitalであるChunburi general hospitalを訪問した。（ベッド数、Dr数、Nr数）スライドによる病院の紹介によると、1918年に開設、1935～47年にかけ新病院を建て、第3次医療サービスを行うことになった。病院の機能は三つに分れ、①health service、②教員訓練、③リハビリテーションとなっている。

同日、Community hospitalであるパナスニコム病院を訪問した。ここではCommunity hospitalにおけるCommunity health activityについて、病院長の説明、プライマリヘルスケアのためのチーム活動の実践、Community orientedの活動の場が、看護学生、看護婦を待っているということであった。

7．供与機材の活用及び管理状況

この課題はプロジェクトカウンターパートである保健省看護教育課と調査団が持った評価会議（2月20日及び2月21日）で話し合われた。

(1) 機材供与の評価・考察

看護教育プロジェクトに係る機材供与については、事前調査の時点からタイ側の要望をつねに汲んでおり、ＡＶセンターの設置、拡充の計画作りにあたっては、特にこの分野の国際協力に経験ある専門家が、タイ側が既に持っていた機器との併用を考慮のうえ作成したもので日本側は十分に対応した。

第一回目供与にあたっては、船積みを延期してＡＶセンター主任の日本研修に現物を供するなどして便宜をはかった。

完全設備が目的なのでなく、教材を製作すること、作られた教材によって教育の成果をはかることが目的であることを相互確認する必要がある。当面の課題は、

1) 供与機材を使いこなすこと

（ポータブルカメラが重すぎたら、いつどう使うのが得策か考えてもらうこと）

2) 長期計画を再検討し、先ず年間ビデオ製作計画を練る。これは単独の計画ではなく、当然スライド等他の教材との使い分け、また4年カリキュラムを考慮する。

3) 年間で取りくむ製作を、1ないし複数の教科にしぼったら、前項の焦点も決まる。

4) 筋書き作りから、ビデオ製作のノウハウまで学びながら習作し、それをCommittee が教材としての適不適を決めるというこれまでの製作プロセスにも再検討を要する。

5) 不適品であってもその旨を付し教育現場で試用が始まっているとのことであった。これについては、使う側にも何が不適なのか、どうすればTeaching-Learning に適するのか等批判の目が養われてくることを期待したい。

協議中作品を2本見て感じた変化（＝進歩）は、ビデオ教材がtheoryを教えることよりもpracticeを指導することに役立つ教材として活用されつつあることである。今後はテロップやチャートを入れることにより、さらに使用効果の高い作品になろう。

プロジェクトの終了時を待っても、カウンターパート製作のビデオ教材の教育成果、さらに広義に、教員不足を補いうるか、或いは教科書不備を軽減できるか、の当初の到達目標をみきわめることはむずかしいが、進歩のプロセスは評価したい。計画によればビデオ教材製作があと4本残っているとのことであった。役立った専門家の分野としてhardware、softwareの専門家派遣があげられたが、実際帰国研修員によっては、供与機材の活用はまだ研究の余地があると見受けられた。教材はカメラワークや録画テープの編集だけではない。看護教育分野の駐在専門家、短期派遣専門家の指導により、画面で看護行為を学生が学べるビデオ作りを、技術者に習得させたい。

今回調査団が視察したSrimahasarakham 及びChonburiの看護カレッジでは、ＡＶ教材の使用現場を見学できなかったが、当然使い方の技術協力が今後の課題である。

協議中、Project Directorは今後とりくむ専門看護5分野の教育研修は、一部病院でおこなわれるが、この研修受入れのため病院が必要とする特殊器材について要請の意向を表明した。これはプロジェクト延長の検討項目であるが、看護教育技術協力の枠の再確認が必要であろう。

8. FINAL DISCUSSION BY COUNTERPARTS

General Evaluation of the Project

During the first year of project implementation there occurred a problem associated with coordination of project activities. Such a problem occurred because it was NCD's first experience with an external aid organization whose personnel differed in their language, culture and familiarity with official rules and regulations. The following years saw an improvement in communications which resulted in better coordination and implementation of the project when Professor M. Hibino the Team Leader took office, who is a professional nurse, having a better understanding of the nature of the work, and sympathetic with the Thai situation.

Evaluation of the Experts Program

The project benefited a great deal from the experts' services in that they provided coordination, advice and consultancy to the NCD in the many areas of nurse education as well as in the development and production of audio-visual materials.

A critical evaluation of the experts program shows that some of the experts did not speak English which made it difficult to communicate. Translation must first be made from Japanese to English and then from English to Thai which was a cumbersome process. Some of the experts were not well prepared to deliver lectures and thus made their presentation unsuccessful nor covering the outlines of the topics they were supposed to present. Experts in research studies were not on schedule ands the consultation they provided was untimely. This posed a difficulty on the researcher in that she had to mail the questionnaires to the experts in Japan prior to pretesting which at times had made the research procedure stagnant. All these problems were referred to the Team Leader. Some problems were resolved but some remained unresolvable.

Evaluation of Equipment Procurement

The NCD and the colleges of nursing under its jurisdiction have received a good quantity of necessary equipment including vehicles to support inservice training and enhance effective instructional activities in these colleges. In addition, the audio-visual equipment and materials the NCD has received also have spill over effects on other departments, divisions and agencies.

A critical assessment of equipment procurement shows that while this basic equipment meets the minimum requirements it is still far from adequate in terms of the requirements of the new curriculum which is community-oriented in nature. Moreover, the audio-visual materials produced are inadequate compared to demands of the colleges and the production standard is not up to par in spite of continued improvement.

Evaluation of the Fellowship Program

Nurse educators had an opportunity to gain new knowledge, experience and technology in nurse education. They also had a chance to have cultural exchange and gain mutual understanding with the Japanese people. Upon their return

to Thailand, they were able to apply their new knowledge and experience to their work.

A critical review of the fellowship program reveals the following drawbacks:

1. According to plans, the total number of fellows would be 20.

However, up to present only 15 trainees have been dispatched to Japan, and as the project will expire on July 31, 1985, there is no guarantee that the remaining 5 trainees can be despatched in according to schedule.

2. The durations of the training courses were not all suitable; some appeared to be inadequately short, such as AV Training which should have been 3 - 6 months long and administration of Nursing Education which should have been 3 months.

3. Most trainees had difficulties in understanding Japanese when they had to communicate with ward supervisors. It is therefore suggested that all fellowship recipients be taught Japanese prior to their training. Alternatively training institutions should be confined to those whose staff have a good command of English.

4. Study visits should take longer than a half day. They should be extended to 2-3 day per place.

5. Nurse educations who participated in specialized courses (12 months) were mostly department heads or academic assistants who possessed adequate background in their areas and did not further practice on students. They needed to observe students on practicum, student assignments, nurse personal administration, and new instructional techniques both in theory and practice to be applied to their own work.

Evaluation of the Research Study Program

Research findings have been provided to educational institutions, nursing institutes and concerned agencies for their perusal and academic development. Illustrative examples include the use of research findings in the improvement of the four-year nursing education program, and the enthusiastic response by the National Education Commission who requested the NCD to fill in a survey form in an effort to make the findings available to foreign institutions and individuals. This means that the funds received for the purpose of the study has not only provided information necessary for the improvement of the ongoing nursing education program, but also made the Thai nursing education system known to the outside world.

A close look at the research study conducted during the life of the Nursing Education Project shows some shortcomings. One is that some respondents did not understand how to fill in the questionnaires which resulted in misinterpretation of the data. However, this was rectified at a later stage. Another shortcoming is that data processing by computer is not available in the Ministry and the NCD has to rely on the services of outside agencies (such as National Statistics Office). At present the NCD has received a micro-computer from JICA and it is now possible that some types of data processing can be carried out through this facility. NCD, therefore, hopes to complete future study reports on time.

Evaluation of the Middle-Level Trainees Training

This training program has provided more knowledge and experience to the middle level nurse instructors and service nurses and has enabled them to improve their instruction and their work. The trainees were provided an opportunity to exchange knowledge, experience and views with each other.

The rotation of the training venue from one campus to another has opened an opportunity for the trainees to learn different ideas from other colleges and adapt those ideas to their own college.

A critical assessment of the local training program reveals certain problems. In the Fiscal Year 1982 there was a practical problem of commodation rates and perdiem to be paid to trainees which resulted in a postponement of the training session from July 1982 to January 1983. However, after the matter was resolved through an agreement with JICA and DTEC, the training course finally took place. Another minor problem is that some colleges kept sending the same person or group of persons to attend the training courses which was due mainly to the small number of staff those colleges had.

The NCD plans to continue its inservice training program which is deemed necessary for this level of staff. Further assistance by JICA would enable the NCD to carry out this program within target dates and achieve target numbers. Without such assistance, the training would be restricted by budget constraints.

Evaluation of Textbook Development

The textbook development program has added larger volumes of textbooks to nursing education and has helped reduced teaching load of the instructional staff. While the students are engaged in individual studies, the instructors are able to devote their time and effort to the translation and writing of new textbooks. The textbook development program has also helped the service nurses to gain more professional knowledge since the textbooks that have been developed are also provided to the libraries of all MOPH hospitals throughout the country.

As the NCD views textbook development as a continuous program, further assistance by JICA would help to expedite the process of producing more Thai textbooks. Without such help, textbook production would be limited by the budget ceiling.

Evaluation of the Establishment of Srimahasarakham College of Nursing

The construction of the college commenced in October, 1981 with a grant aid from JICA. The grant aid also included furnishings, instructional equipment and materials, and modern utilities. The new college was completed and handed over to the MOPH in February, 1983 with a total cost of 186 million baht.

Srimahasarakham College of Nursing is very well designed and constructed and equipped with modern facilities. It is the college that Mahasarakham people and the people of Thailand are very proud of. The staff of this college carry a responsibility to maintain standards of excellence in all respects —academic, administrative and services.

It is envisaged that in the future the college will function as an inservice training center for nurse educators and will be adequately staffed.

9．総合評価と提言

(1) 総合評価

① ＮＣＤと各学校とのプロジェクト計画上の調整が、十分にとれていない。特に、希望機材（Ａ－４フォーム）、研修員派遣などの面にみられた。

② 看護教育カリキュラムの改善、看護教育内容の改善と、看護教育プロジェクトとの関係が明確になっていない。それは、カリキュラム変更、カリキュラム変更と専門家とのかかわり、研究とカリキュラムとの関連などにみられた。

③ ５年間のプロジェクトによって、タイの看護教育は大きな飛躍をしたといえる。

④ プロジェクトの到達目標が具体的に明文化されていないため、今までに何をやったか、という視点での評価となっている。

したがって延長の場合には、延長期間内で達成できる目標に基づいた明確な枠組みの中で、双方の合意に基づいて行うプロジェクトとする必要がある。

(2) 延長についての提言

① スリマハサラカン看護学校の第１回生が卒業するまで（1987年３月）、学校建設に伴う４年生看護教育の成果を見まもり、見とどける責任がある。

② 現研究が完結し、４年制看護学校・学生・卒業生の評価ができるまで、見とどける必要がある。

③ スリマハサラカム看護学校は、教員養成のモデル校となるように方向づける指導を行う必要がある。

④ 将来、タイ国が、アジア地域の看護の向上のため、第３国研修ができるように、その方向で指導する必要がある。

⑤ 研修員については、21校に及ぶまでに到っていないので、21校に及ぶようにする。

⑥ ＮＣＤの中の人で、意欲があれば、もっと他から研究費を得て研究ができると思われる。

Ⅵ. 今後の対応　— 延長プロジェクトの内容に関する提案 —

別紙延長プロジェクトの内容－1985.8～1987.7（案）に基づき、今後の対応を決める必要がある。

あわせてプロジェクト延長の必要性とその要目、および非公式のものではあるが、タイ側から示された5年延長の要求の概要を示した。

延長プロジェクトの内容 ― 1985.8～1987.7 ― （案）

60.3.26

種類	内容	人的・物的規模 人員 人	1年目 人	2年目 人	選考基準・検討課題など	備考 タイ側の意向との関連
専門家派遣	スリマハサラカムNCへの協力（長期専門家） 研究への対応・助言 新カリキュラムへの対応 ワークショップ ＡＶ作製 } 協力 Ｔｅｘｔ翻訳 技術移入のための具体的方策	長期 2／年 短期 6／年 コーディネータ 1／年	長期 2 短期 研究 1 PHC 1 （Drも可） AV 2 （ハード，ソフト） 教育 2 （臨床専門）	長期 2 短期 研究 1 PHC 1 （Drも可） AV 2 教育 2 （臨床専門）	スリマハサラカムの扱いをどうするか。 短時はなるべく数を増やす。必要時通訳をつける。 従来の方式をかえ、タイの目的に従い、多様な対応をする。 PHC についてはDr. の参加も可、長期専門家は、臨床専門領域の研修生との関係、NCD の主催するmeeting, ワークショップなどの目的との調整をはかる。短期専門家は、ＡＶ活用などにより教授法のデモを行ったりすると参考になるのではないか。 チームリーダー、国内委員会などについて役割・機能の明確化・強化をはかる方向で検討する必要がある。 長期の人はマルチパーパスで働ける人を選ぶ。	タイは、マハサラカンを特に意識していない。
中堅技術者研修	ほぼ従来通りであるが、２年間のターゲットーＡＶ作製、text翻訳、技術移入などについてーを決める。今回は主として、ＡＶ作製、text翻訳に力を注ぐ。	ＡＶ－基礎看護のVideo教材作製 basic medical care（気管切開、切開縫合など？）または臨床専門領域の看護技術など。 英－タイText－Text作製、現Textの修正、新カリキュラムに沿った新Textの開発につなげる。			ＡＶ－basic medical careは、タイ側の意図する内容の確認が必要。	タイは、ＮＣＤから21ＮＣへの必要十分な教材配備に重点をおいている。
研修員受入れ	臨床看護専門領域 5人 整形外科 小児科 精神科 ICU-CCV basic medical care （内容確認必要）	長期・短期含め 5／年	小児科 2 精神科 1 ICU-CCV 2 看護教育に関しては、夫々のコースに入れる。	整形外科 1 内外科 1 地域 1 産母 1 未熟児 1 看護教育に関しては左と同じ。	選考について ・スリマハサラカムより、および未派遣の４年課程をもつＮＣを優先する。 ・技術移入のできる人 ― 長期および短期専門家によるプロジェクト活動内容との連携にもとづいて、協力が十分にできる人。 日本の看護教育について、長期専門家のオリエンテーションが必要。	
研究	現研究の完結（４年制１回生卒業フォロー迄） 1987.2 看護教育の基礎的整備に関する研究（助言、協力） 諸基準、カリキュラム評価etc. 次研究への提言	短期のうち１名をあてる。 長期も対応する。	現研究 諸基準 カリキュラム評価	現研究 完結 諸基準 カリキュラム評価 次研究への提言		タイは、カリキュラム開発に重点をおいている。 新カリキュラムは、1985年５校 1986年３校、1987年３校、計13校でテストされる予定。
供与機材	従前通り。 ただし、今回の評価調査、日本での学校設置基準などからみて、優先順位を付す。 ＡＶの他に、teaching-learning に必要な機材。 ＰＨＣ中心のカリキュラムに必要な教材。	各校に人工蘇生用シュミレーターがそろえられるようにする。 （心マッサージ、人工呼吸練習用シュミレーター、蘇生バッグ など。） 分娩モデルを増やす（スリマハサラカム） ＡＶ機器 Books(英文)			機材選択に専門家が必ずかかわり、プロジェクトの目的に合った機材・機種を選ぶ。 日本の看護学校での教材設置基準と比較してどうか。 ＡＶ要請、機材要請の内容はタイの教育方針にマッチしているか。 今後どのような選び方をすればよいか。	

プロジェクト延長の必要性とその要目（案）

60.3.26

項目	内容	備考 日本	備考 タイ
延長時間	2 年 (1985.8〜1987.7)	2 年	5 年（正式文書はない）
目的	現プロジェクトで未完成の部分を完結させる。 タイ看護教育発展のために、ＡＶを含めた教材の充実、臨床専門領域の看護の開発、看護学校運営のための諸基準やカリキュラム評価などの基本的事項に関する研究・開発・整備に協力する。	延長理由 ・４年制看護学校の第１回生の卒後評価を含め長期研究が終結する。(1981〜1987.2) ・スリマハサラカム看護学校の第１回生が巣立つ (1987.3) ・タイ看護教育開発のための基本的条件の整備が終了する。	ＰＨＣの看護教育カリキュラム、および看護スタッフの開発。 教育機材の開発配備。 目的 …… 看護婦教育、看護教員養成により看護婦の信頼性効率性を高める。
目標	スリマハサラカム看護学校の教育内容の充実。 現研究の完結 ＡＶ教材、タイ語教科書の作製と21看護学校への配備 臨床専門領域における看護技術の習得と伝達 看護学校運営のための諸基準の研究・開発・整備 カリキュラム評価のための研究・開発の援助		目標 …… 看護婦のマンパワー強化 21看護学校の教育の強化 アジアにおけるＰＨＣの看護教育モデルを目ざす。
プロジェクトサイト		ＮＣＤ ＡＶ教材センター スリマハサラカム看護学校 その他の看護学校	ＮＣＤ 看護教育開発センター （バンコクカレッジ内に予定） ＡＶ教材センター 21看護学校
完了時の成果（２年後）	・看護教育・看護学校運営に必要な諸基準の作成 ・４年制看護教育について学生の意識調査による評価（７ヵ年研究1981〜1987） ・研修生の臨床専門分野における看護技術の習得、効果的な伝達および教育への反映 ・スリマハサラカム看護学校における新卒業生の誕生 (1987.3) ・ＮＣＤが、将来第３国研修が行える。		抽象的な文章で、リクエストに記載されている。

タイ側からのリクエスト	Request 内容	備考
プロジェクト延長の妥当性	ＰＨＣに焦点をあてたカリキュラム、スタッフの開発。 教育機材の作製および配分により、看護教育発展のためセンターとなること。	PHC Project(1982～1987) との関係で短期専門家が得られるか。 （小泉明、松本のぶお、松本まさみ 豊川裕之、ももい一郎、太田あらを）
プロジェクトの目的	看護基礎教育および看護教員教育によって、看護婦の信頼性、効率性を高める。	現プロ 1. 看護研究を通して看護教育を改善する。 2. 教育方法の改善 3. 看護マンパワーの強化
特定目標	1. 看護婦養成・訓練のための国力を強化する。 2. 21の看護学校に対して、そのカリキュラム、教育プログラム開発の支援を行う。 3. 世界の当該地域の他の国々に対して、複写可能な看護教育プログラム開発のモデルを提供する。	1. 教育課程の改善、量・質のニードに対応する看護婦の増 2. 看護教育、看護実践の展開のために、信頼性の高い手段としての研究 3. ＡＶＣへの機材供与および制作教材の21看護学校への配布 4. 看護教員の研修員の日本での訓練
延長プロジェクト完了時の成果	1. 21看護学校における看護教育の信頼性、効率性が高まる。 2. 看護教育における地域志向カリキュラムの実施 3. 21看護学校の教員・学生用の基本的教材の妥当な配置。 4. ＮＣＤにおける研究遂行能力の維持向上。 5. 教育効果および教育プログラムの質を評価する評価基準設定。 6. 看護婦および看護教員の継続教育への定期的参加による資質の向上 7. 当該地域の他の国々に有益な地域志向カリキュラムに基づく新システムの看護教育の実施。 8. 看護学校における教育基準を改善する視点に立って、ＮＣＤ下の看護学生に国家試験に匹敵する試験の実施。 9. 看護学生の入学送検に看護適性テストの実施。	
プロジェクト・サイト	1. ＮＣＤ 2. 看護教育開発センター（ＣＮＥＤ）、ＡＶ教材センターを含む。 3. 21看護学校	現プロ 1. ＮＣＤ 2. ＡＶ教材センター 3. スリマハサラカムＮＣ

タイ側からのリクエスト	Request 内容	備考
作業計画詳細	1. カリキュラム開発 1) カリキュラム委員会の設立、カリキュラムコーディネーターの指名（21NC） 2) 看護教育における地域志向カリキュラムの開発 理念、目的、目標、教科目、単位数 3) カリキュラム実施指導要領の作成 4) 教師用のカリキュラム教材の開発 教授方法、教科内容、評価方法 5) 新教科書の開発、新カリキュラムの目的目標に沿う現教科書の修正 6) 教員養成計画の開発、カリキュラム実践のモニター 7) 新カリキュラムテストのための5校(1985)において、年度はじめに教育およびカリキュラムの質を改善する視点での理論および実習に関する定期的形成評価 3校追加（1986） 5校追加（1987） 8) 13校（上記）での新カリキュラムのテストから、教育プログラムの形成評価を行い、その結果としての修正により、国全体に適用する 9) 卒業生の業務実践の評価 2. 教育機材の制作および配分 1) ＡＶ教材センターでの教材の作製 2) ＡＶ教材の21看護学校への配分 3) ＮＣＤ以外の他機関とのＡＶ教材の交換 4) 保健省下のすべての部局に対してＡＶ教材の貸出し作製のサービス 3. スタッフ開発プログラム fellowship 4. 専門家 短期 → ＡＶ関係を中心 長期 → 臨床専門領域、教員のアドバイザー 5. 機材供与 マイコンの供与 6. 研究 看護教育開発センターを建設したい。	

RECORD OF DISCUSSIONS CONCERNING
EXTENSION OF THE PERIOD OF
TECHNICAL COOPERATION PROGRAM FOR
THE NURSING EDUCATION PROJECT

The Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") dispatched a survey team to Thailand from February 18 to February 24, 1985 to evaluate the Nursing Education Project which was started on the basis of the Record of Discussions signed between the Japanese Implementation Survey Team organized by JICA and the Thai authorities concerned on August 1, 1980.

During its stay in Thailand, the team had a series of discussions with the Thai authorities concerned with respect to the results of the 1980 - 1985 technical cooperation.

As a result of the discussions as well as the further consultation of both parties, JICA and the Thai authorities concerned agreed to recommend to their respective Governments that the period of the above-mentioned technical cooperation should be extended until July 31, 1987 as explained in the document attached hereto.

Bangkok, July 16, 1985

Mr. Michimoto GOTO
Resident Representative
Japan International Cooperation Agency

Dr. Amorn Nondasuta
Permanent Secretary
Ministry of Public Health

for Mr. Apilas Osatananda
Director-General
Department of Technical and
Economic Cooperation

ATTACHED DOCUMENT

The Japanese technical cooperation will be implemented in principle, on the basis of the Record of Discussions signed on August 1, 1980 with the following amendments of the Attached Document and Annex.

A. TERM OF COOPERATION will be amended as follows:

TERM OF COOPERATION

The duration of the technical cooperation for the Project under this Attached Document will be two years from August 1, 1985.

B. Activities under the Project of ANNEX 1 MASTER PLAN, will be amended as follows:

ANNEX 1 MASTER PLAN, 3. Activities under the Project

(1) Completion of the long-term research on evaluation of the new curricula.
(2) Specialized instructional improvement at the Srimahasarakham College of Nursing.
(3) Development of suitable audio-visual instructional materials and textbook.
(4) Other activities mutually agreed upon as necessary.

TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION FOR THE EXTENDED NURSING EDUCATION PROJECT

	Fiscal Year	1985	1986	1987
I	Dispatch of Japanese experts			
	Experts in:			
	nusing education	←	2 persons (Long-term)	→
	audio visual education;		1 person each	
	(software)		↔ (short-term)	↔
	(hardware)		↔	↔
	coordinator	←	1 person (long-term)	→
	other experts		1 person each ↔ (short-term)	↔
II	Training of Thai personnel in Japan			
	In nursing education and specialized clinical nursing work	←	3 persons	3 persons →
III	Provision of machinery, equipment and materials	←		→

JICA